以良都女

第二十四號

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第二十四號目次

社説
女學校の目的
日本女服改良會

小説
[illegible] 第四回

家政
小兒の育て方に付て
洗濯法一斑○○桐油――紙――象牙――滲垢――陶器及硝子細工――マホガニイ――金銀器――繡箔――汚斑

文藝美術
雨夜の品定め評釋
和文の變遷
柳櫻都錦繪

寄書
女學校の職員丼に教員を悉く女子にすべし
理論の危險

雜纂
大日本國風音樂會
日耳曼國音樂の大家モザート氏の傳

流行
單物○晴雨計かんざし○ゴム製珊瑚○半襟○パチン

批評
淡綠記音樂
山間の名花
掘出しもの
お八重
嵯峨の尼物語

懸賞文藝 新題

通信問答
髪帽子の垢じみたるを新しくする――濃茶の器――歯の肉色のあしきを治す――詩文七騎落の作者――和文及び和歌の注釋書――假名遣ひの稽古本――時雨を節に知る法――橙花水――月經の常より多きこと――ニキビ急治の害――パスタマツクの効――首筋の色の黒さを治す――痰を去る――咳の藥――目の縁の腫れるを治す――硼砂の効――ヘチマの水

質問一題
世界第一身体の色を白くする法

餘興 新作 懸賞記

月報

注意！！！
本號第三十七頁下欄社告を見よ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第二十四號

社説

女學校の目的

往時の學校と今日の學校とを比べて見れバ其間に非常の差異があるヿハ何人でも承知のヿであります。其差異と言ふハ唯敎授の方法の差異許でハありません敎授の課目の差異許でハありません又學問の程度の差異許でもありません。其差異と申まするハ學校の仕組學校の目的が全く異なつて居るヿであります。昔時ハ學校と申して別段に組織の定まつた今日の學校の如きものハありませんが唯儒學國學醫學其他百般の藝術に長じた人ハ各弟子を集めて私塾を開きまするのが先今日の學校であります。此學校に於てハ唯學問藝術を授け筆讀算數を敎ゆる許りで無く常に師の左右に侍して日夕其薫陶を受けまするから內に在ても外に出でゝも師ハ何處迄も師。弟子ハ何處迄も弟子でありまして其關係ハ至て親密なものであります。夫故に弟子ハ自から師の行ひを學び又自から師の性質に似る樣になります。昔から大學者の門下から矢張大學者が出ますのハ多くハ此理に依てゞありましよう。又往時の學校に於きましてハ同門の關係が極めて親密でありまして自から一の團結を爲して居る樣な姿でありました。今の學校ハ全く之とハ事變はりまして敎員ハ生徒の雇人で生徒ハ敎員の雇主であると言ふ樣な姿でそして敎師ハ只學藝技術を敎ゆる許を以て其職務とし生徒も亦學藝技術を學ぶ丈を以て學校の効用と致して居ります。夫だから學校內に於てハ敎師となり生徒となりますが學校外に於て全く關係の無い人の樣で師弟の關係らしきヿは少しも有りません。然るに近來ハ識者の間に於て大に此有樣を慨歎し何でも學校ハ唯學問技術を敎ゆる許で無く專ら人物を養成し無ければならん敎師ハ唯學術を生徒に敎授する許て無く第一に生徒を薫陶するヿを心掛けねばならん生徒ハ敎師を以て其雇人と考へず退學の後迄も常に學校及敎師に對して親愛の情を忘れず相互の間にハ團結心の常に無けねばならぬと言ふ議論が稍勢力を得て敎育も漸次に此方向を執て行く樣で有ります。扨て此學校の目的に關する主義に付てハ隨分議論も有るヿならんが兎に角概して申せば至極結構なヿでありましよう。乍去女學校に付てハ我々ハ此主義が充分に實行せらるゝヿを喜びません。去れバとて決して

學校及教師を親愛するを否とする譯でハないのみならず却て最も嘉みすへきとと考へます。唯教師が生徒を薫陶すると學校が人物養成を目的とすると生徒と學校又ハ教師との關係が親密に過ぎて却て生徒の一身上の事に迄立入るとハ女學校に適用するとを欲しません。女學校ハ只學藝技術を教授する丈の場所として其他ハ父母其他生徒の一身を監視する責任あるものに放任するとを希望します。

勿論女學校に付ても人物養成を目的とすると自体が惡しきとでハ有りません又教師が生徒を薫陶すると自体が惡しき事でも有りません。若し教師に婦人の職務に付て充分の經驗を有し又婦人の持つべき性質を充分に備へたる人ありて生徒を其方向に薫陶するとが出來れバ是最も希望すべきとであります又此の如き薫陶に依て婦人の美德を備へたる人物を養成するハ是又最も望ましきとであります。然し今日の處にてハ此の如き女學の教師ハ先づ極めて乏しとせねばなりません。今日の教師ハ多くハ男子で勿論婦人の職務ホ付き經驗ハ無く又婦人の具ふへき德とハ全く反對の德を具へたる人でありますから大抵學藝技術を授ける丈の教師を以て自から居らねばなりませぬ。人物を養成するに付ても唯學理ホ基づきたる德

育を授ける外濫りに教師の勢力を用ゐて生徒を薫陶し自分流儀に生徒を仕立樣とするとが有てハなりません。然るに間々此範圍を越え學術の教授者を以て滿足せず生徒と學校の關係或ハ密なるに過ぎ生徒將來の身の納まり迄或ハ立入るが如きとあるより往々世間の嫌疑を招き終に普く女子教育の信用を害するが如きとあるハ誠に歎かはしき次第であります。生徒一身上の世話ハ父母親戚の責でありまして又最も善く世話の行届くものであるに却て此關係に於てハ最も不得手なる學校に於て其世話を爲さんとするハ抑も筋違の事と言はねばなりません。

猶團結心の事に付て一言申陳べたきとがあります。男子に於て學校生徒間に團結心を造るとは後來事業を爲すに付て極めて有用なとがありますが女子ハ將來各々別々ホ家政に從事するものでありますから團結の必要ハ決して有りません。既に今日に於ても同校の生徒間にハ自から團結心が有て他校の生徒とハ互に相輕蔑する風があります。是は單に通用の惡き女子を養成する許りで他に効能はありません。團結心は成丈抑へたきものであります。

以上陳べましたる目的を達するにハ寄宿舍を廢するとが最と

も必要であります。寄宿舍に在て學校を家とするものハ別に之を薫陶する人がありませんから不完全にして且弊害ありと知りつゝも學校に於て之を薫陶し或ハ其一身上の事に迄立入るを要するの事情を生ずるでありましよう。又寄宿舍ハ最も團結心を造成するものであります。其他寄宿舍にハ種々の弊害が有るとハ多言を待たずして明白でありますから已を得ざる必要ある外可成寄宿舍を廢して女學校ハ只學術技藝を授くるの場所として生徒の人物を養成するハ只學術に依て氣風を高尚ならしめ學理に基きたる德育に依て德義を養成するを極度とし一身上の勢力に依て生徒を薫陶すると無く女生徒と教師又ハ學校との關係ハ只學術教授上の關係に止まらんとを希望致します

日本女服改良會

すべて改良を要する物事に二種類は有るもので、即ち其一ハ焦眉の急に應ずるので、また其一ハ永遠の慮りを爲すのです。焦眉の急に應ずるものハ是非とも萬口一致そのためには一刻をも爭つて爲なければなりません。が、永遠の慮りを爲すものハ必しも急激に走せず、而もよく改め、よく補ひ且更よこの修正を他日にも期してさて堅忍不拔の精神でそれに着手すべきことです。

今前に屬する改良の種類ハこゝにいふ必要もありませんから省くとして、後に屬する改良の種類の而もこの重なるものに就てハ我々も一言を云はなければならぬ運に迫られましたその重なるものとは別でもありません、日本女服改良です。

かぞなふれバ最早裘葛をも換へました、一時いろ〳〵の奬勵から婦人にも洋服がやゝ行はれて來て、頗る急激の風をあらはした、その勢ハ俄に力を殺がれてまた日本從來の婦人服が夜會にも多くあらはれるやうになりました。しかしながら一盛がかならずしも永久の盛の前兆でなく、また一衰も未來の衰の豫報とも云へません。波動の規則を社會にも當て歛められるものならば社會に洋服と日本服とが起伏するのもまた波動と評する事が出來ましよう。そして波動で起伏する内に未來の運命ハ自然かれこれの陶汰にも因る事でしやう

今日本の女服、これを此儘にして今日の處多少滿足(もし滿足の意味が廣くないものならバ)ハ出來るにしろ、しかし多少の欠點のあるのハまた止むを得ぬ次第、終に改良を要するのハ識者の認めるところです。ならバ、その改良ハ今日

の急務ではありません、しかし永遠のためには又捨ては置けぬ事です。　幸に我々の同胞姉妹および我々にして今日婦人に就ていやしくも多少の喙をはさむものは又多少の注意をこの改良に傾けるのがつまり義務です、責任です。　然るに社會は焦眉の急で無いとして輕々しく之を看過ごして居る樣子われ／＼は殊に親愛する姉妹の諸君がまづ率先主唱を取られぬのを悲んでも居ました。

しかし、今聞けば喜ばしくも日本改良女服會が立ちました專らこれに盡力せる人は佐々城豐壽女史、太田鎰男などの諸氏で今すでにその規則書が出來て、創立の準備中です。　われ／＼は此處でその規則の全文を擧げて讀者の御目に掛け、さて之に付ていさゝか抱くところの意見を述べる心得です。

日本女服改良會趣意書

開國以來百般の事物多くは皆長足の進歩をなし其面目を一新するに至りしもの枚擧に遑あらずと雖も我同胞の幸福を增進し我國運の盛榮を致すに於ても欠くべからざる所の女服の改良に至ては事多くは言論に止まり未だ其事實の進歩を目擊すると能はず是れ實に女服の改良を熱望する吾々に取ては寢衣を着して戰場に臨むの歎なき能はざる所なりとす何んとなればバ生存競爭の優悠たらざる今日に於て人傑の輩出を促し農商工業の隆盛を期せんとするにも先づ其一大要素なる女子の體質は勢ひ速に之を改良せざるべからずして之を改良せんとするに於ては須らく先づ現時の欠點多き日本の女服を改良するを要すると論を俟たざればなり、我日本人種の體質强健ならざるに於ては百事大概海外の强健なる人種と競爭すると能はざるべく熱心鋭意農商工の諸業を振起せんと欲するも其目的を達するに付て最も必要ある所の奮發勉强忍耐の諸力は我同胞の人々個々か今日よりも遙かに其體力を增進するに非ざれば之を得ると能はざるべく又朝野共に教育を重視して努力する所あるにもせよ筋骨の發育を妨害し心身の動作をも自ら遲鈍に陷らしむるのみならず衛生上より論究すれば釀病の一元素たるとは一目瞭然たる所の現今の女服を改めざるに於ては智德兩育の完全なる結果は之を望むべからざるなり其他婦人の勢力を增進し厭忌すべき多くの弊習を破るに於ても女子の改裝は極て必要なるを以て玆に日本女服改良會を設立し其目的を達するか爲めに必要なる適當の制限を設け廣く世の智者が抱ける意見と其工夫せる改良女服を集めこれが實行と普及を計らんとす冀くは各個人及國家に及ぼす和服の弊害の著大なるを認め洋服は衛生上に少々ならざる障害あるのみならず之を坐禮に用ひ難く（家屋の制改まらざる間は暫らく立禮のみを用ゆると能はざるべし）且つ又我國の經濟及工業上にも少々ならざる損害を加ふるが爲め之を一般に用ゆべからざるを看破し我現在の國情と文明の大勢とに適應し得べき女服の需用を充たさんとするの有志は奮て其改良女服を本會に提出し又女服改良の實行者となつて後進者を誘導するの勞を吝まず社會に率先して大に公私の利益を增進せんとを希望せら

る丶先覺の諸姉ハ速に當て入會あらんとを祈る

明治廿二年五月　　　　　　　　發起人

日本女服改良會規則

第一條　本會を日本女服改良會と稱し之を東京に置き府外須要の地にハ支會を設く

第二條　本會の目的ハ我帝國の敎育衛生殖產經濟等の諸件よ妨げある現時の女服を改良せんが爲め制限を設けて改良女服を求め之れが實行と普及を計るにありとす

第三條　本會ハ婦人を主として之を組織し何人を問はず本會の目的を賛助するものハ會員たるを得せしむ

第四條　本會の會員ハ本會に於て採用したる改良女服を着用し以て我同胞姉妹を勸誘すへきものとす

但し本會よ於て採用したる一種若くハ數種の女服に對し異議を有するものは本會に於て更に自己の意に適する女服と採用するに至る迄强て着用するを要せざるものとす

第五條　本會の會員を分て名譽會員通常會員及び賛成員となし特に本會の目的を賛助する男子を客員となす

第六條　本會の役員ハ總裁一名會頭一名評議員七名幹事二名會計委員二名を以て定員となす

第七條　總裁は本會の事務を總裁し會頭は本會行務の主宰として本會の總務を指揮す評議員ハ本會ぉ關する重要の事務を審議し幹事ハ通信記錄に關する事務及び庶務を掌り會計委員は會計事務を掌理す

第八條　總裁及び會頭は發起人會に於て之を推撰し評議員ハ創立の際に限り總裁の意を承け會員中より會頭之を指名す幹事ハ評議員の互撰を以て定め評議員より之を兼務し會計委員ハ會員の投票を以て之を定む

但し本條に於て會員と稱するものは單よ通常會員に限るものとす

第九條　總裁及會頭ハ無任期とし其他ハ總て滿一ヶ年を以て任期となし滿期の節ハ更よ總裁の意を承け會員に依て撰擧せられたる候補者中より會頭之を指名す

第十條　本會に於て採用すべき改良女服ハ左に記載する所の諸項に適合すべき資格を有するものたるを要す

第一項　衛生上和洋兩服の如き弊害なきもの

第二項　外觀上現今の和服及洋服よりも優美なるもの

第三項　動作に便なる點に於て洋服に劣らざるもの

第四項　立禮と坐禮とに共用し得べきもの

第五項　經濟上比較的よ和洋兩服よりも利あるもの

第六項　國產を專用し得べきもの是れなり

第十一條　改良女服を本會に提出して其採用を請ふものあるときは會頭先づ評議員をして之を審査せしむべし

第十二條　評議員に於て規則第十條の諸項に適合せる改良女服なるとを認めたるときは會頭ハ總裁の認可を經て之を採用し評議員の意見書と其衣服の明細圖を印刷して會員に配付すべし

但し本則第十四條に該當する場合に於てハ提出者に於て印刷費を負擔すへきものとす

第十三條　評議員に於て規則第十條の諸項に適合せざるものと認めたるときは會頭より之を提出者に返付すへし

第十四條　事業家の提出に係る改良女服を採用したる場合に於て特に意匠專用の承認を請求するものあるときは左に記載する權義の交換を約し總裁及會頭より承諾證を提出者に交付すへし

一提出者より會員に與ふへき特權

一裁縫に關する一切の質問をなすの權

二會員自ら裁縫するの權

但し營利の目的を以て裁縫することを得ず

一會員より提出者に盡すへき義務

一裁縫の傳習に對する報酬として會員中の需用者より適宜に金十錢以上を出金して提出者に寄贈すること

二會員に於て提出者の按出に係る女服の裁縫を專業家に依托する場合に於ては總て之を提出者に依托すること

第十五條　本會に於て第二回以後に採用すへき女服は其前に於て採用したる女服よりも必ず優等なるものたるを要す然らざるものは規則第十條の諸項に適合するものと雖ども採用することなかるべし

第十六條　本會に於て採用したる女服の數二種以上に達せしとき其撰擇は會員各自の隨意たるべし

第十七條　本會に於ては毎年一月及六月の各第二土曜日を以て常集會を開き猶春秋二期に大集會を催すべし

但し會場及大集會の時日は其都度幹事より新聞紙上に廣告すべし

第十八條　本會に入會せんとする者は其旨幹事に申込むべし

第十九條　本會の會員は會費として一ヶ年金十錢を出金すべし

但し通常會員の外出金を要せず

第二十條　支會に關する一切の規則は必要の場合に臨み別に之を定む

第廿一條　會員に於て本會の規則に改正を要する個條あることを發見したるときは三名以上の同意者と共に其改正案を幹事に差出すべし

改正案は評議會の審議に付し可決したるときは會頭より總裁の認可を經て之を採用し否決したるときは改正案を提出者に返付すへし

第廿二條　本會は改良女服の完全なるものを得て自然の流行に放任するも妨げなきの期に達せんことを認むるときは之を解散すべし

以上二十二條、これが女服改良會の主意です　（未完）

小説

繡鴛鴦　　麹亭飯人

第四回　喧ましき女生の談話

千早振神田秋葉が原に、近來築きし校舍あり、結構は都べて西洋風にて、白き甍は雲に聳びえ、赤き壁は日に映ろひ、石なす柱、玉なす窓、取り分け庭園の廣やかなるは、此の校舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の佳處にして、新らしき空氣の融通、鮮やかなる酸素の往來常に絶えたる間のなきは、雜草雜樹の青々として、茂り合ひたるにも知られたり。さて其の周圍に繞らせるは鐵の柵にして、其の前面の門頭に「私立麗繡學校」といふ表札を揭げぬ。今しも放課時間にや、三三五五隊を成し、駒下駄と重げに運ぶ令孃ハ、蘭麝の香ゆたかにして、革靴を輕げに輾らすレデーは、薔薇の匂こまやかなり。これも其の一隊にや、校舍の南方なる櫻の下を掻い潜りつゝ、

△「感心な方ですよ、春山先生ハ」。

○「然です、そしてね、先生の畫に御熱心なこと、實に驚きますよ、日外も先生の處へ伺つたといふ人の話に、あの……先生の御書齋ハ、恰で淺草の觀音樣の鴨居のやうで、種々の畫が掛つて居て、それを先生ハ常に詠めて樂しんで居らッしやるとねえ」。

□「へえゝん其んなに御熱心で在ッしやるの、感心な方ですねえ」。

話しながら歩む處へ、洋服着たる二人の令孃、大兵肥滿ともいふべき程に肥え油づきて、今にも落ちなんとする尻を打ち振りながら、猶競走でもする心得にや、息せき馳せ來りつゝ、ぱッたと行き逢ひ、前なる令孃ハ△と□との間なる令孃に眼を注ぎ、

「春山さん、でハなかッた春日井さん、今春山さんがお出でになッたの、一時から畫學ですよ、業が始まッたらねえ、あなた」。……

と己が連なる令孃を見返りながら、

「ノーチイス ケアフレイ、トウ ホワット ゼイ チイチアー セース、フオア ヒー ラヴス ユー ベター ザン エニー ワン エルス」。(Notice carefully to what the teacher says, for he loves better than any one else.)

後なる令孃は少し冷笑を含みて、

「ザット イズ ベレー ストレンヂ」。(That is vary st-range.)

と言ひ捨てつゝ又両人は馳せ去りぬ。春日井といふ、令孃は、内氣の質にやわらん、ほんのりと顏を赤らめ。但看れバ年の頃ハ十六七にして、身体ハ稍肥えたれど、肢体の結搆太だ釣合好く、頸筋の具合より、肩先手足に至るまで、彼のボルーゲ氏が物したる美人論にも適合すべし。芙蓉の容顏、楊柳の

蛾眉、鼻隆くして筋とほり、口少さくして愛敬を含み、色は飽くまで白けれど、中に自つから淡紅を帶び、髪は極めて黑けれど、更に癖のあらざるは、素直なる性質を知るに足るべし。目は大ならず小ならず、パッチリとして秋波涼しく、水色縮緬の繻絆に、黄八丈の薄綿入を着、表付きの塗下駄を穿ちたる樣、實に畫かれる美人に似て、風姿秀麗にして、態度温柔なり。やがて左右の女伴を見返り、

「あの衆達の活潑でいらッしやいます事ねえ、阿儂等には迚も如彼眞似は出來ません、而して英語を達者にお遣りなさる事ねえ、阿儂は如何いふものか、英語が嫌ひなので、何をお言ひやら颯ばり解りませんが、あの……

△「眞個に面憎い人達ですこと、此方の方へ向いて、而も貴姉の方を見て、あの斯いふ事を云ッたんですよ、『先生の云ふ事に御注意なさい、外の人よりも貴姉を可愛がるから』、と。」

「さうでしたか、何だか阿儂を馬鹿になさるのだとは思ひましたけれど……其れじや其んな事被仰ッたの、もう一人の方も何だか被仰りましたねえ。」

□「あの方は『夫れが大層變だ』と言ひましたの。」

「ねや然でしたか、滅多に春山さんの噂も出來ませんねえ、オホヽヽヽヽ、それは然と貴姉方も、毎度阿儂は感心して居ますよ、日本の事も能く御存じで、それに英語までお遣りになりますから。」

□「おや、あんな事仰しやる、妾なんぞは眞箇の鸚鵡の眞似ですが、△さんは中々如何して。」……

△「是は畏れ入ります、妾は其れぢや猿の人眞似とでも云ひませうか、オホヽヽヽヽ。」

折から號鐘の聲聞えければ、すはとて皆々講堂へ馳せ入りぬ、此の三人も徐々と內に入りて、さて我が机卓に就く折しも、畫學の敎師春山芳香は一同へ挨拶して、言葉やはらかに、

「春日井さん、昨日貴孃から御書面でしたが、丁度外出する折、門前で郵便脚夫から受け取つたまゝ、袂へ入れて出ましたら、如何して落したか見えなくしたので……下書の御用でしたらうとは思ひましたが、全く何御用でしたか、つひ麁相致しまして。」……

春日井とやらいふ令孃は、さらぬだに或生徒に、春山とは色の戀のといはるゝに、今又まのあたりの質問、夢にだに知らぬ質問に、答ふる言葉さへ容易に出でず、兎やいはん角やせ

んど、胸のみ漫に轟ろきて、暫ばし俯向くを訝かしげに、皆目を春日井に注むれば、猶さら耻て顔を赤らめ、漸やくにして

「妾はお手紙をさし上げませんでしたが。」……

「さうですか、でも令孃の御姓名でしたよ。」

「へえゝ……いつも御下書は頂戴ますけれど、昨日は。」……

「令孃ではございませんでしたか。」

「はい。」

「ぢや、何かの間違ひでせう、宜しうございます。」

是れより春山は授業にかゝり、曲線直線の説明等、何くれとなく懇に物し、さて此の日の日課を畢へぬ。されど春山も春日井も互に相疑ひて、孰れ曲線やら、直線やら、心に種々の想像を畫がき、苦勞は彩色のためならねど、何處やらすまぬ二人の顔を、或生徒は忽ち邪推し、尾に尾を附けての岡燒評判、三人寄れば姦ましと、文字に書けるも理にて、實に喧ましき女生徒の話柄とこそはなりにけれ。

　世の噂を見猿か聞か猿か平氣で五猿方あり耳を掩ひて鈴を盜みしてふ故智を學び玉ふ博士の智惠は格別のもので

五猿

家政

小兒の育て方に付て

人が成長の後世の中に出でゝ何事を爲すに付ても決して己の思ふ儘になるものはありません。己の爲し度事も外より妨げられて爲すことも出來ず、爲し度も無きことにても外より强られて爲さねばならぬことも多くあります。社會の壓制世間の義理ほど苦しきものはありません。しかし此世に生れ出でたるからは如何なる職業を取り如何なる仕事を爲せばとて此困難を免れることは出來ません。此盤根錯節を通り拔けるの巧拙が即ち智愚賢不肖の境目です。夫だから小兒を育てるに付ては幼少の時から我意我慢の起らぬ樣己の意志は屢々儘にならないことがあるといふことを敎へ込まねばなりません。若し小兒を氣隨に育て上ぐるときは其成長して世間に出でたる後萬事其意の如くならぬを見ては忽ち失望落膽するか或は不平を懷て狂氣に陷り遂に一生廢人となるものが隨分あります。昔から英雄豪傑と謂はるゝ人にても往々世間が意の如くならぬに依り或は此世を果敢なみ或は世人を怨んで深山幽谷に隱遁するものがありますが是等は最も耐忍の力が薄きものにて決して

異の英傑とハ申されません。畢竟事情已むことを得ざるものも有りましようが其母たるものが幼少の時育て方が宜しくなかつたので斯くの如く廢人となつたのであらうと思ハれます、小兒の氣隨氣儘なることハ幼少より抑制しなければなりません扨て之を抑制するに付てハ母たるものハ面倒を厭はぬことと愛に溺れぬことの二の資格を具へねばなりません。

小兒の啼き出して止みませんときにハ大抵玩具か又ハ食物を與へて之を宥めます。是ハ一ハ母親が小兒の啼くことを面倒に思ひ他の方法を以て之を宥めるの煩を厭ひ只目前の快樂を與へて之を醫せんとするに又一つハ小兒の愛に溺るゝの餘其請求を拒むことが出來ないからです。是か即ち後來に至て小兒の我儘を增長せしむる大なる原因となります。小兒ハ其目前の結果のみに依て判斷する外出來ませんから啼けば必ず快樂を得請求すれば必す己の欲するものを得ることが出來ると心得ますそして終にハ一の習性となつて己の思ふことが通らねば承知せぬと云ふ樣に成り行ます。夫だから小兒ハ他に人無き折にハ隨分の苦痛を受けても啼くとハありませんが兩親の居るときにハ極めて些細の苦痛を受けても直に啼き出します。稍長じたる後になりましても何か少しく善事を爲すときは直に賞品を與へて之を奬勵することがありますが是も常に行ふときハ却て大なる害を生じますから成丈ハ心中の愉快丈を以て勉强の報酬と考へる樣小兒の精神を向けねばなりません。德川三代將軍の世朝鮮使節來朝の時愛憎暴風雨にて江戸の城壁大破に及びたるに松平伊豆守の考案にて糊粉紙を貼付けて僅かに体裁を裝ひたるを見て世人ハ伊豆守の才智を感じたりしが土井大炊頭許ハ却て之を苦々敷事に思ひ斯くてハ增々將軍の我儘を增長せしむへしとて却て伊豆守を責たと申話がありますが人の母たるものハ伊豆守の智惠許りで無く亦た大炊頭の遠慮も無くてはなりません。

洗濯一班(前號のつゞき)

桐油

桐油またはオイルクロスはいづれも紙或は布に油を塗つたもので、これらは常に濕氣を受けると黴や浸がありはれやすい物です。それ故、なるべく之は乾いた處に用ゐるのが宜しいです。すると、長く光澤も失せません。

オイルクロスなど、その柔いのはテーブル被にも用ゐ、また硬いのは床などに敷きますが、いづれもその心掛を以ていやしくも濕り

を受けたようなら、氣をつけてよく拭ふのを(なるべく乾いた布で)怠らぬが肝要です。しかしその拭ひ方も一度に力を入れるのははなはだ悪いことです。そろ〳〵と倦まずに拭ふのが専一です。そればかりか、拭ふ布巾に砂や塵が引き掛かり、それを構はずに用ゐると、大に布の肌を損ずるものゆゑ、拭ふ方の布巾もたび〳〵振つてそれから塵を去るやうにしないといけません。

襖紙

襖紙は布でも拭へず、また麾でも拂へず、これに塵があつまると最も取りあつかひにくい物です。殊に襖紙が葛とか純子のやうな丈夫なものならば格別の面倒にありませんが、小鷹紙や間に合紙に至ると全く一寸うまく洗へません。で之を旨く洗ふにはパンに限ります。なるたけ水氣のなくなッた食パンを小刀で美事に切り、その切口で紙をそろ〳〵擦るので、斯うすると紙の上の埃や塵はこと〴〵くパンに吸ひ取られます。可なり塵が吸ひ付いたところで、猶そのよごれたる儘で用ゐて居ると、却つてまた悪いです。よつて薄黒く塵がパンの面に大抵吸ひ付いたのを見たら、注意してその處をなめらかに切り捨て、更に奇麗なパンの面をあらはして

また前のとほり拭ふのがよろしいです。

また此頃よく西洋風の日本家で用ゐるマーブル紙、即ち漆を掛けて大理石のやうな模様を出したもの、これは普通の洗濯石鹸で洗つてさしつかへありません。が、石鹸を溶くには水がよろしいです。

象牙

輕石をなるたけ細末にし、水と等分に交ぜ、この交ぜ物を手に取つて指で象牙を磨く、これが象牙洗濯法では第一の手段です。汚點は一切これで取れます。しかし洗ひ上げて乾すに當り、直接に日光を受けさせると斑點などが生いて見ぐるしくなるものです。さうかとて影乾もまたいけません因つて象牙の上に硝子板をかぶせ、そして日に逢はせるのです。またゝく間に乾きますが、是だと何の害もありません

湯垢

銅壺や鉄瓶の中に湧く湯垢を好む人もありますが、また嫌ふ人もあります。これを去るには亞麻で小袋をこしらへ、その中に馬鈴薯を入れて置くのです。最も馬鈴薯は三日目くらゐに取りかへなくてはいけません。

陶器及び硝子細工

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

これらは大抵木炭の細末を灰汁で解き、その汁で洗ふのが一番簡便で、かつ成効も速です。

マホガニィ

西洋製の木細工にはよくマホガニィといふ木を用ゐます。このマホガニィの光澤を出すにはやはり連日よく拭くのが肝要ですが、猶左の法を用ゐても宜しいです。亞麻仁油一合杜松子油七勺、白砂糖小匕一杯、この合藥を木に垂らし、フラネルで烈しく拭き、またその跡をば麻で拭くのです。

金銀器

すべて金屬器は用ゐた後にかならず熱湯で洗はないと汚れが出るもので、ことに金銀は猶です。で、この注意を怠ッたがため汚點が出たならば、まづ熱湯へ入れて煮、それから取り出して洗なければいけません。銀を磨くには最上の白堊のよく乾いたのが最も適當です。

繡箔

細末にした純正明礬と白堊との合はせ粉をブラシにつけ、それでそろ〳〵拂ふのが繡箔を洗ふための最上法です。

汚點

酒や果實の汁が衣服や布に付くと、みにくい汚點になるものです。之れ荒療治より何よりまづその汚れた處を二人で引き張り、すこしづゝ沸湯を掛けるのが最も宜しいです。

鐵銹が衣服についたのも困るものです。之を去るには陶器の鉢の中に十分沸湯を入れ、錫板を鉢の上に亘し、布を其上に展べ、レモン汁をすこし其汚點に付け、毛のやはらかきブラシでそろ〳〵擦るのです。この法はインキを去るのに用ゐてもよいです。レモン汁に付いては前號のいらつめ家政欄內洗濯法の部第十を御參看なさい。

文藝美術

雨夜の品定め評釋

たそや。

男女のよしあしを品評する事を雨夜の品定めと云ふは殆普通の詞となりて殊に仇めきたる方にのみ使ふ事となれり、然るに其の本元なる源氏物語の雨夜の品定めは仇めきたるよりは寧ろ女子の心得方を書たる者の如し。而も武斷の世に出來たる者とちがひ、其の儘明治時代の女子の心得方として殆枝梧する所なきも珍しき心地す。されば其の中最も當時に適切なる處を拔萃して、諸君と共に復讀せんと欲す尤女子の心得方などは淑女方の御耳痛く雜誌記者等の腕が

揷木となるまで御互に「飽きも飽かれも」した事なれど、古人の言とし云へば何となく讀まほしく、書かまほしき心地もせらるゝは、恰も同じ茶を飮むに古代の名器で頂戴するの心地よきと同じ理なるべし、

さて雨夜の品定めは、誰れも知る通り、源氏物語第二帖帚木の卷にありて一部中最六つかしき處の一とす。故に源氏は二帖にして止む者多く、雜誌は二號にして廢する者多し、今之を解釋するに成るたけ假名に漢字を當て、詞の足らざる處は括弧を以て補ひ猶意味の分かり兼ねる處は括弧の内に＝標を置き、(＝何何)として以て其の前文の意味は之に齊しといふ事を示す。故に初學の諸君は傍訓によく注意して括弧の中をも積け讀みに讀むこと一返然して後全く括弧中の文を省きて讀み給はゞ意味安々と分かるべし解釋法の中にて此の法最も便利にして且原文の風味を傷はぬ法なり。かく言痛き老翁親切を申すも昔或る盲人が子をまうけて是れも盲人にはあらずやと心配せし類にこそ。

雨夜の品定めは源氏の君の御曹司なる桐壺即淑景舍にて雨夜の徒然に頭中將、左馬頭、式部丞など云ふ人々參りて女の品評をせしあり。

女の是れはしもと難付くまじきは難くもある哉と漸々なん見給へ知る(＝見知り候ふ)。唯表面ばかりの艶情にて走書折節の返簡(を)心得て打ち爲など許りは隨分に宜しきも多かりと見給ふれど(＝見候へども)、其れも實に其の(艶情)の方を取り出(て申立にせ)ん選びに必漏るまじきは甚難しや。我心得たる事斗りを己が自心を遣て人をば輕蔑め拆傍痛き事多かり

〔評〕ろこだて。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

男の公に仕ふ奉り墓々しき世の固めとなるべきも、誠の器量となるべきを取出さんには難かるべし。されど(公の事は)賢しとても、(僅に)一人二人(にて)世の中を政ち治るべきならねば、上は下に助けられ、下は上に靡きて、事廣きに讓ろふらむ。狹き家の内の主とすべき人(＝細君)一人を思ひ回らすに(一身萬事を任ずる故)足はで惡かるべき大事どもなん劣に多かる、

〔評〕婦人の任重きこと明治の世に始まるにあらず。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

又老實しき筋を立てゝ(頻りに立働く故、下げ髮をうるさがり、鬢の毛をすばめて耳に引掛)耳挾み勝に、ビサウナキ(此の語本統には分らず)細君の偏に打解たる後見(＝家政)ばかり

そして、(此一文甚長く、以上ハ細君の性質を云、以下姑く夫の身上を云ひ、終に又女の身上に返る文なり)朝夕の出入りに付けても公私の人の動靜善き惡き事の目にも耳にも止まる有様を疎人に態と打語ばんや、近くて見ん人(=我が妻)の聞き分き、思知るべからんに語りも合せばやと打も笑まれ、涙もさしくみ、もしは(=又は)あやなき(=わけもなき)公腹立たしく(=岡目に腹立、法界悋氣し)心一つに思餘る事など多かるを、(我妻之を聞分ぬ故)何かは聞せんと思へば、打背かれ(=後向氣になり)て、人知れぬ思ひ出笑もせられ、「嗚呼」とも打獨言たるるに(妻はぼんやりして)「何事ぞ」など淡つかに差仰ぎ居たらんハ如何ハ口惜しからぬ(=如何ぞ苦苦しからざらん)。

〔評〕女ハ男の相談相手とならざるべからざるも亦明治の世に始まるにあらず。又云ふ、「差し仰ぎ」の字ボンヤリの形容を悉くせり老錬の筆と云ふべし

* * * * *

今ハ唯身分にもよらじ、貌をば更にも言はじ、甚劣しく佞けがましき評判だになくば、唯偏に物老實に靜なる心の趣きならん歸着をぞ結局の頼み所(=細君)にハ思ひ置くべかりける。 餘分の風趣心ばせ打ち添へたらんをばよろこび(=メッケモノ)に思ひ、少し劣れたる方あらんをも強ちに求め加へじ。 後ろ安く(=後ろ暗き所無く)長閑き所だに強くば表面の艶情は自ら持て付けつべき事ぞや。

〔評〕男にも限らず、女にも限らず、學術、才能、美貌、富貴几百の幸福を具へたる人も、誰この「後ろ暗き」一點あれば忽變りて一家内の黒雲となるに至る。(以下次號)

和文の變遷

新保磐次

其三

梨壺五人の一人なる清原元輔の娘に清少納言と云ふ才女あり。是れ一條天皇の時の事にして文學上著しき時代なり。皇后定子の宮女にハ此清少納言あり、中宮上東門院の宮女にハ和泉式部、小式部、紫式部あり、院の母君の官女に赤染衛門あり、其文彩風流ハ皆當時第一流に位せり。才女の一時に名を並べしこと此の時より盛りなるはなし。

或る年雪の降り積もりたる日清少納言等皇后の御前に侍りけるに皇后ハ「遺愛寺鐘欹枕聽、香爐峯雪撥簾看」といふ唐詩を思ひ出し給ひ「少納言よ香爐峰の雪ハ如何にや」と仰せありければ、少納言ハ直に立ちて御前の御簾を卷き上げたり

これ少納言が隨筆なる枕草紙にも記せり。此の婦人學に誇り、才を恃み往々老學士を説破嘲弄せり、自己の草紙にハ頗る之を喜びたれど、紫式部が日記にハ暗に之を譏りて婦人に似げ無き所業とせり。

赤染衛門ハ淑徳ある婦人なり。歌ハ妄りに作らず、作れば必ず人をして自愧ぢしむるの品格ありと紫式部ハ譽めたりき。然も機轉の才ありて其の夫大江匡衡が藤原公任の爲に辭表を草するに甚しく苦心したるを見て、不思議の趣向を夫に授けて公任卿を滿足せしめけり。

小式部ハ和泉式部が娘なり。母子共に和歌に長じ、小式部ハ尤當意即妙の譽れあり。小式部幼き時、重く煩ひて今ハ限りになり、人顏も見知らぬ程になりて臥したり。母の式部傍に添ひて額を押さへて泣きけるに、小式部目を僅かに開き母の顏をつく〴〵と見て肩息にて、

いかにせん いくへき方も思ほえず
親に先だつ道を知らねば

と云ひけり。此病ひは癒えしかど小式部遂に母に先だちて死にければ、上東門院にハ最惜しく思し召し、其の年小式部に賜れるべかりし絹を母の式部が許に遣はしける、其の札に小式部内侍とありけるを見て、和泉式部、

諸共に 苔の下には朽ちずして
埋もれぬ名を見るぞ悲しき。

當時文人歌人多りし中に能優美の文章を殘て百代の摸範とせし者ハ紫式部なり。有名なる源氏物語ハ此人の作し小説にして當時の風俗を寫せし者なり。風景を記せば春花秋葉自ら讀者の眼前に動き人物を記せバ君子小人尋常の人、老人、小兒輕薄人、田舎人の情態一として眞に迫らざる無。離別を叙すれば人の腸を斷ち、滑稽を雜ふれば人の頤を解。千變萬化の際遂一の奇怪を語ず、甞嘘らしき人物なし。余今其一般を擧て諸子と共に之を讀んと欲れども、遂に際限なからんことを恐るなり。抑小説ハ實傳にもあらず脩身書にもあらず實に畫圖の類にして唯能物を寫の術なり。かくの如き趣意を執り、かくの如き筆力を有せる者ハ我が國三千年の間唯一の紫式部あるのみ。

紫式部ハ文藻の勝れたるのみならず、柔和端正の淑女なりき。當時宮女の品行甚乱れたる中に式部ハ早く夫に別かれて、二夫に見えざるの貞節を執れり。其の長女大貳三位、後一條院の御乳母に選バれ、次女辨局ハ後冷泉院の御乳母に選バる、蓋式部が家庭の敎育を推し知るに足れり。

此の時代に男子にして歌に長したるは藤原公任を以て第一とす。　公任は多藝の人にして、一年關白道長公大堰河に船遊びし給ひける時、詩、歌、音樂の三船を分かちて其の道々の名人を載せられけるに、公任卿には「何れの船に乘り給ふぞ」と尋ねられけり。　さてこそは心驕りのせられけめ。　此の時公任は和歌の船に乘りて

朝まだき　嵐の山の寒ければ
紅葉の錦着ぬ人ぞ無き。」

と云ふ歌を作り、自謂ふ、「詩の船に乘りて此の歌ほどなる詩を作りたらば、名を揚ぐべき事なりしぞ。」と。　當時漢字の流行せしを推し知るべし。

公任の稍後輩なる源經信も亦三船の譽れを得たり。　白河院大堰河行幸の時亦詩、歌、管絃の三船を分かたれしに、經信遲參して主上の御氣色殊の外惡しかりけり。　三船已に岸を離れたる時經信漸參り着き、河の汀に跪きて、「何れの船なりとも寄せ候へ。」と云ひしこそいみじかりけれ。　經信一年住吉の行幸に供奉して

沖つ風　吹きにけらしな　住吉の
松の下枝を洗ふ白波

と云ふ歌を奉りしが、之を躬恒の「松を秋風吹くからに。」の歌と比較して常に自樂しみしとぞ。　高等日本讀本

柳櫻都錦繪第三幕目大詰　立花家かをる作

本舞臺四間通し常足の二重石掛けの蹴込み此の前浪布をしき所々に浪よけ杭後ろ邸の土塀下手はすに横網の町家に見せたる繪心の書き割り上手へよせて丸物欄干つけの橋こゝに御藏橋と云ふ標札をうち都て横網川岸の模樣宜しく浪の音雪下ろしにて幕開くと直に右の鳴物になり下手より小夏峰三傘をさし出て來る

（峯）姉樣大部醉ッてる樣ですネ（夏）ナアーに御前の方が醉てるから氣をつけてをくれよ（峰）御邸から車に乘ればようムい升々に（夏）歩行く方が洒落れて居らーね（峯）そこらで見つけて乘り升よ」とひよろ〳〵する（夏）あぶないから川の方へ御よりでないよ」とこつちへよらせやうとする小夏の手をとり峰三は思入あつて（峯）もし姉樣私の言ふとをきいて下せい（夏）なに言ふとをは（峰）先つきも家で言つた通りこんなに惚れた私の心少しは察してをくんなせいとこれに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て小夏ハ少し立腹の思い入れにて(夏)をい峰殿酒の上とハ言ひながら妾や御前の主人だよ主人に向つて其の樣なみだらなとが言ハれるかへ(峰)主人で有ふが何んで有ふが男の意地(夏)そりや御前本性かへ(峰)本性ですとも一旦男の口から出ちやもーあとへは引けません(夏)そんなら御前ハどうあつても(峰)うんと言つて仕舞ひねー」ときつと仕打小夏ハ向ふを見て知らぬ顔をして居る(峰)をい姉さん」と肩をたゝき」いやさ竹山清子さんだまつて居るは不承知か否ならばドーも仕方がねー御前の毎日戀ひ慕ふ色か亭主の花垣始め自由黨等の身の破滅(夏)やゝ」とぎつくり仕打(峰)今大平の世の中に何が不足か知らねーが花垣殿が首となり多くの人を加盟させ穩かならぬ企をもくろむことを分署へ行き殘らず告發したならば徒黨の人數ハ忽ち捕縛其の企の一から十まで知つて居るのは私ち一人こんな臺詞ハ言ひたくねーが先きが先きならこつちもこつちこゝは一番二枚目の敵役でも爲にやーならねー」ときつと思入れ(夏)そんなら御前ハ何事も(峯)殘らず知つて居りまさー」とずぶ〳〵しき仕打にてしなだれかゝるを小夏ハ突きのけ(夏)それ知られては一大事」ともーこれ迄と云ふ思ひ入れにて傘をわきに置き手早く帯の間から短刀を出し(夏)峯殿堪忍してお呉れ」ときつて掛るをびつくり峯三ハ飛びのき傘をさし付け(峯)こりや面白い……水月以來恐ろしき出刄庖丁と思ひの外流石生れが生れ丈け九寸五分とは奥床かしー濱町川岸に横網川岸雨の代りに降りしきる雪の眞中に私ちと姉さん丁度似合の音羽屋師弟」と又きつて掛るを入れ替つて傘をつぼめ小夏の腕を押へきつと見得(夏)其の二番目の世話中に餘り不粹な妾でもお梅氣取りの音羽屋役似ぬ聲色を遣ふよりどーせ活かして置けない御前命を妾に渡してをくれ(峯)こつちが芝居の峯吉なら随分きれいに殺されて御前に幕をきらせやうが巡査上りの伊東峯三ふざけた眞似をしやーがるなと」早めの合方になり日覆より大部雪をふらし面白き立廻りあつてど小夏ハ峯三の傘をうち落し一刀切るこれにて峯三ハ血紅になりたぢ〳〵とよろめきながら欄干につかまりきつと見得小夏ハづか〳〵下手に行き向を見込む本釣鐘三味線入り水の音早き合方になり雪を遣つて烈しき立廻り宜しく有つてとゞ小夏ハ短刀を峯三の脇腹に突き込これにて峯三ハもがきながら本釣鐘にてばつたり落入る(夏)ハ可憐さうだと云ふ思入りにてほつと仕打合方替つて

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小夏ハ涙を拭ひ（夏）どうぞ許るして下さり升此の身も跡から冥途へ行きつと御詫は致し升す」と雪にて短刀をふき樣子を知らぬ世間ではさぞや毒婦と」ぢつとこなし又氣を替へ（夏）無体の戀難をしかけた故仕方がなしに殺したと名乗つて出るが此の身の望みサウぢや〳〵」と上手へ行かうとすると橋の方にて人音するこれにて傘にて顏をかくす橋の上より前幕の正作合羽足駄番傘をさし出で來る小夏ハすれ違つて一散に逃入る正作は眞中に來り（正）ヤヽ恐ろしー血しほ」とぶる〳〵しながら峯三の死骸につまづき（正）こりや人」とびつくり不思傘を投げ出し雪の中に倒れるを道具替りの知らせ雪下ろし水の音にて道具廻る

毎度ながらかをる令孃方よ又ゝ御詫を申し升す前號にハ夥しき誤りにて一々ハ申さずとも皆樣の御承知なれども中にも柳橋を枡橋秋田富三を新田など〻……夫れに名題に不用の「の」を入れ……深く校合者に代つて……

寄書

女學校の職員並に教員を悉く女子にすべし

愛讀者諸君ハ改進新聞の濁世を讀み給ひしならん、讀ざるも傳聞し給ひもしならん。之をよみ之をきゝて如何なる感を起し給ひしか。必ず驚き給ひしならん。必ず官立女學校にして博士の校長たるもの單一なるを以て迷ひ給ひしならん。必ず理學博士高等女學校長矢田部良吉君が嘗て同校の生徒たりし柳田君と結婚したりし事實あるを以て益々疑ひ給ひしならん然しあれは小說です假想の事實です。堂々たる官立學校の校長生徒にしてかゝる不都合のあるべからざるハ記者の盟て保證する處です。

さりながら我同業なる新婦人記者の云へる通り源平時代には源平時代の小說あり、徳川時代には徳川時代の小說ありて小說は時事を寫し人情を照らすの鏡です。今日の日本ハ變遷の時代道德萎微の社會、濁世の如き事實は起り易い時代です。だから濁世も出たのです諸君も之を讀で半信半疑したるのです。加之ならず文書を以て他人の惡事醜行を摘發すれば其事實の有無を問はず重き罰に處せられます。故に有る事實も有るようでないやうに書きますから小說の如く無い事實を有る樣にかきますと僞か眞か實に區別のしがたいもので諸君の疑ひ給ふも無理ならぬ事であります。併し濁世は無い事を有樣に書た者に違ひあり升まいが、今日の日本濁世の如き事實の起

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

り易い時代、殊には我國の道德ハ日益に地を拂ふ有樣ですから尙ほ〳〵濁世の如き事實の發生を未然に防がなくてはなりません

嘗て女子教育に從事された人の話を聞きますに如何な美人が生徒の中にあッても如何なる才女が目前にゐるも決して野心などの起るものでハなく反てウヲ恥かしい心地のするものにて教員の女生徒に對するの感情は丁度我妹に對すると同しものだとのことです。女學校の教員たるものはかくあるべき筈、かくありたきものです。しかし斯る教員に記者の云ふ迄もなく堅固なる道德心のある人です。そして教員はかゝる道德心のある人のみでハありません。人間は感情の動物、色欲の餓鬼です。只よくこの感情を制するのハ社會の道德と一箇人の道德心です。この二がなければ人間は勝手氣儘の振舞吾〳〵の想像も及ばぬ所業をするに違ひありません。下女でも追ひ出す樣に義理ある女房を離緣して富家の醜女と婚し或は娘かと違へるほどの小娘と指環を取かわすものゝある濁世ですかゝる非人が教員となり毎日〳〵休日の外嬋妍たる才女と相對し先生〳〵と敬まひ慕はれたらば可愛い妹と思ふでしやうか　是は方正な教育家に起る感情です。非人に在ては嗾り込みたる垂涎は不淨の血液と化し腦中に入て古着を捨てゝはでやかな新衣を得んとの欲望を作り出します。しかし片思ひでしやうか。イエわが尊敬する先生にやさしい語をかけられ、可愛らしい嚴い眼でにらまれ身をしびらする手が肩に觸はる度毎に日一日にメスメルされて遂には人の浮評も七十五日と大膽にも色欲の奴となり果てます。

我國現今の女子教育家は道德堅固の人のみです殊に高等女學校の如き官立の學校にて主務省より任命されたる方々よれ必ずかゝる不都合はないことゝ確信します、然し此等教育家にいつ如何なる事情よりして變遷の生するかは知れません。そして教員となるには別に道德の試驗はありませんから前申した非人が教員となるかもしれません。若し萬一かかる非人が教員となりてわが女生徒と道ならぬ所業をしたらば惡事千里の比喩の如くわが模範とする者にしてかゝる畜生道に迷ひいらば上の好む所下之れに倣ふ校長犬とならば教頭も豚となり校長教頭豚犬となれば教員も小使も(まさか)猫や鼠にならぬとはいはれません。校長一度犬となれば決して他の畜生となるを咎むるとハ出來ません。

もし未來にかゝる學校のありもせば諸君は最愛の令孃を

委托なさりはしますまい。令孃諸君は就學なされますか。必ず潔白なるわが名譽の濁らんとを恐れて就學なされますまい。さらば其結果ハ、申さずともその國の女子敎育ハ衰えます。人間ハ色欲の餓鬼、女生徒と敎員との不都合のないとは云ハれません。ありとすればこの結果ハ是非生します。
然らば是を未來に防ぐの方策を研究するのは無駄なとではありますまい。而して最良の方策ハ職員も敎員も悉く女子にすればこの弊ハ避けられます。女子のみにては高等の敎育ハ授けられぬと云ふ人もありましやうが我國にて既に隨分立派な女學者があります監督の方さへよろしければ今の高等女學校の課程位ハ敎しへられます。若し不足ならバ西洋婦人を雇へば苦もない話です。また女子にも不品行の者あれば不道德の男子に代ゆるに不道德の女子を以てす何ぞ擇ばんやと云ふ人もありましやう。しかし女子と女子の間には畜生道ハ成り立ちません、これ丈でも既に益ハあります、況や如何な不德の女子も敎場にては爪を隱さゝるものなきをや。

理論の危險

本鄕　N　N　生

理論の外に實際ハありません實際の外に理論ハありません理論と實際とは互に牴觸すへきものではありませんが社會ハ今日にても未だ幼稚の區域を出てませんし理論も猶不完全を免れませんから今日の所にては理論を以て說明の出來ない實際も多く實際を以て證明の出來ない理論も少なくはありません習慣と申すものは社會に取て極めて大切なものでありますが多くは何れの時に出來たか又何の爲に成立たかは別りません夫だから理論を以て推通さんと企てますと習慣などは一々皆不條理の樣に見えますか其實習慣か不條理では無くして理論か不充分なるか爲不條理に見ゆるので有るとが屢々有ります世の改良又ハ矯風を論する人々ハ餘り理論に偏せす習慣抔をも能く々々斟酌し無ければ終には破壞主義ヱ陷りまして世を改良せんとする目的が變じて秩序を乱すに至るとは歷史に澤山其例があります
扨て女子ヱは嚴敷節操を責めながら男子ハ殆んど此點に付ては責任無き有樣なるハ日本從來の習慣で又西洋諸國にても未だ々々其氣味があります。此點ハ近來大分議論があるとて我〱も女子と同しく男子にも節操を責るの慣習を養成するとは固より希望する所でありますが數千百年來の習慣一朝に改めるとは先々難しと見なければなりません。男子の弊風を矯正

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

するヿか出來ない場合に理論を極端迄推及ぼさヾ男子已に貞節ならず女子何ぞ貞節なるを要せんと云ふ極端論に立至るヿ無きか是か我々の最も心配する所であります。女子ハ特別に貞節で無ければならぬと云ふヿハ曾ていらつめでも論したヿかある樣であります。其ハ兎も角も矯風論者の目的ハ決して男女の間に平均を求めるヿハありますまい必す男子の弊風を矯正するヿでありましよう。己よ進みたるものを退かしめて以て其後れたるものと平均を得せしむるのハ決して改良とは申しません。進んで男子の弊風を改るヿか出來なければ退て女子の良風を保存するヿを務めねばなりません。斯計の事ハ誰しも承知の事なるべければ今改めて喋々するハ杞憂に屬するかハ保し難けれとも男子の弊風を矯正せんとするに付てハ自ら男子と女子と德義を異にすべきの理由なしとの理論を生するてありましようそして此理論を正しきものとすれば男子に於て貞節ならされば女子も貞節なるを要せすとの結論を生すべければ男子矯風の目的を達せざる曉よ好し公然女子も不貞節にて可なりとの議論を唱へざるも自から男女平等の理論を根據として銘々の貞節に緩みを來すか如きことあらば藪を打ちて蛇を出すの悔を免れず。誠に恐るべきハ理論の危險であります。

雜纂

大日本國風音樂會

おもし樓藝仙

先日藝仙が日本俗曲の改良に付いて惡口を書きし時本誌の記者は乙に胡麻を摺りて藝仙は棚の達磨にして暴論家なり抔と勝手な譏謗をなししが今度ハ藝仙も文明開化して大に改良を擧める積りなれバ、記者も亦藝仙を誹ること能はざるべし。

某某氏外十六氏の發起に係かる大日本國風音樂會は……從來の曲譜の雅正なるを保存し、……現在の曲譜の不可なる處ハ之を改良し……大に我が國の音樂を盛ならしめんとの目的にて其の第一會を本月中に木挽町の厚生館に開會する由云々と或る新聞に見えたり。嗚呼盛なるかなえらいかな。長生きすれば樣樣の事を見るぞかし。

美術の區域は廣し、美術者は多し。古來美術の產物其の幾千萬なるを知ず、巧みなるも有り、拙き者も有り、要するに完全無缺一の指斥すべき所無き者は誠ふ寡し。況又人を異にし時代を異し、多少好尙の異る無きに非れバ、古來幾千萬の美術

品に向て離れか一々感服を表すべき。然れども感服せざる物をば構はざるのみ、玩ばざるのみ、吟味せざるのみ、別に適意の物を作るべきのみ、氣に入らぬ處あればとて古來の彫刻を斧鑿し、繪畫を塗抹し、詩歌を點竄するは古今東西實に其の例を見ず。獨日本の歌曲樂譜何の幸ぞ今日改良の運に逢ふ嗚呼文運隆盛改良繁昌誠に目出度い御世で御座る。

日耳曼國音樂の大家「モザート」氏の傳

夢の家口述
みさ子筆記

「ジョハン、クリソストマス、オルフガング、ゴットリーブ、モザート」氏は有名なる音樂の大家でありますが紀元千七百五十六年一月廿七日サルスボルグに生れ父の名を「レヲポルト、モザート」と申しました。さて「モザート」氏が有名なる大家となり芳名を天下後世に輝かすに至りましたは全く父の教育其宜しきを得たからであります。そこで本傳に入る前に先づ父の略傳をお話し申し氏の學術の淵源する處を明に致しましやう。父「レヲポルト」は「オーガスボルグ」と申す處の一釘書工の子でありましたが千七百六十二年に撰ばれて「サルスボルグ」の侯「プリンス、アーチビショップ」の樂師の員に加はり音樂師の副長となりました。

然るに閑暇の多き職務でありましたから「バイオリン」を人に教傍ら樂曲をも作て居りました。又此人の作りましたる「バイオリン」の教則書が永く世に傳はりたるを見れば此人も亦巧者な樂師で有つたとか分ります。其後「アンナ マリヤ ペリトル」を迎へて妻といたしました。「レヲポルド」といひ「アンナ」といひ何も天の成る美丈夫美婦人にして其交最も濃にて八人の子供を設けましたが不幸にして六人は夭折し後に殘しは一男一女にて姉を「メリーアンナ」といひ弟は即「モザート」氏です。此二人の子供等は漸く生長し「メリーアンナ」は早七歳となりましたれバ父「レヲポルト」は閑暇を以て姉娘に音樂を教へ始ました「モザート」は此時まだ滿三歳にはなりませんでしたが栴檀は嫩葉からとの譬にもれず他日有名なる大家となるべき徴證を始めて顯しました。一日父は例の如く娘の稽古に掛りましたが熟々思やうわれ今日々娘に音樂を教ふるもの丶始終一人のみなるときは唯教るもの丶不便のみかは教へらる丶ものも張合なかるべし今一人對手を得たきものなりと考へましたが然べき人もありませんでしたから試に三歳なる「モザート」に教へましたが其技能は姉に劣ず行々は有名なる樂師となるの萠がありました。そこで父も大に末賴母敷思日々姉

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と共に教授に餘念もムりませんでした。四歳の時既に「パーピスコード」(此樂器ハ「ピアノ」の祖先ともいふべきものにして百年以前甚流行たもの)と申す樂器にて「ミニユーッ」といふ舞踏用の音樂を巧に奏するとの出來る程になりました。此等の稽古も常時半時間位にて覺に稍大曲にても覺ゆるに一時間と費したるとなくしかも忘れたとハなかつたと申すとです五歳の時にハ最早自分で曲を作る様になりました。或日の事自分の作りました曲を父に示しましたが父ハ子供の戯と心中まけなしながら手に取て見ました處が中々子供等の作りたるものゝ様でハなく自然に作法に叶ひたれバ流石の父も批難の打ち處なくほと〳〵感じ入り幼少なるにも似ず音樂に天稟の才あるを喜び末頼母しく思ひ益其才を發達せしむるとに心を用ひました。それゆゑか五歳の時より著しく上達いたしました。さりながら「モザート」もまだ年齒の行かぬ子供ですから世間の子供と同じく玩弄物を弄ふを好み自分の好な玩弄物を持て遊ぶときハ餘念もなく寢食をも忘るゝ程でした。又或時ハ突然に傍らの人に「あなたハ私を愛しますか」と問ふとがあります。其人が「大層愛します」と答へますれバ此上なく喜び又「私ハあなたを好きません」と答へられた時にハ悲哀に沈みて絶え入るばかりです。全体音樂者はすべて物に感ずるの情至て深きものですから「モザート」が斯様に深く感じ深く悲みましたのハ音樂師となるの基てあつたのでしやう。幾もなく玩弄物を弄ふとを止め音樂にのみ熱心するやうになりました前にも申した通り「モザート」の父ハ音樂師でありますから時々其友人を集めて音樂を催すとがありますが何時も「モザート」ハ其仲間に入共に樂を奏しました。父の友人達も大に感じ「モザート」の如き小兒と共に樂を奏するを樂み「モザート」も衆人と合奏するとを樂みといたしました。又兒童と共に嬉戯するに方り衆童等が行列の戯をなしますときにハ氏ハ傍お在て「マーチ」を謠ひて衆童を樂しましめ或は「パイチリン」を彈じて衆童の足拍子を揃へ愉快に遊戯を助けました。間もなく氏ハ學校に入ましたか前にも申しゝ如く物に凝固る性質てありますから忽ち學科にのみ耽り音樂を學ふとを忘却いたしました。此時にハ氏ハ音樂師となるよりも寧ろ大學者となるならんと思ハるゝ程でした。數學は殊の外好きにて椅子テーブル壁等の餘地ある處にハ悉く數字を書き付けました。是か物に凝の證據です。さりながら是唯一時の事にして「モザート」の性質は原來音樂ゑ適したるを以て再び音樂に心を傾け

ました。或時父ハ寺よりの歸るさに友人を誘ひ來りたるとかありました。折節「モザート」ハ机に向つて字を寫して居りましたから父の友人が「モザート」に何を爲ゐ居るやと問ひましたるよ「パービスコート」に用ふる樂曲を作り居るなりと答へました。父ハ之を聞きうれを見せよと申しましたればまだ出來上らざれハ出來上りたる上にて御覽に入れんと答へて拒みましたが父は强て之を取り友人と共に之を見まするに滿紙墨汁淋漓にて甚見苦しかりしも其作り方ハ如何よも美事なれバ父ハ思ハず手を拍ち感歎して友人に申ますやう余ハ決して斯の如く作るとも出來ず又彈するとも協ハぬなりとて大に赤面いたしました。處へ「モザート」走り來り此曲ハ合奏曲にて余程込み入りたるものなれハ注意して彈ぜるにあらざれバ終りまで正しく奏するとハ難いから私が彈じて見ましやうといひつゝ之を奏しました。抑も此曲ハ音調の違ひなきハ勿論のと往々大伎倆の人にても充分に其妙味を顯すとの出來ない程高尙なものです。六歳の小兒にしてかゝる大作有るハ決して凡人の業にハあらずして神童とや申すべき。世に所謂神童ハ大抵年を積ますればハ馬鹿になるものですが「モザート」ハ年を數ふるに隨ひ漸々其術に長じて參りました。

「モザート」六歳の時一家族擧て獨逸の「ミューニック」に移住しましたが此地の領主ハ音樂に名高き一小兒なる「モザート」の移住しゝ事を聞かれ「モザート」と其姉を殿中に召されその奏樂を聽かれしに其巧妙聞きしにも勝りければ領主ハ大に感せられ厚く恩賞を與へられました又千七百六十二年の秋の頃時の皇帝「フランシス」一世もまた「モザート」の藝能を試みんと思して姉と共よ宮中に召されました。「モザート」ハ此樂ある沙汰を承はりて思ふやう吾今宮中にて樂を奏するともし聽く者少しも音樂を辨へさるものならバ何の甲斐やあるべき寧ろ唯一人たりとも音樂よ長けたる人の前に奏するに若かずとて朝廷に願ひ當時有名なる音樂師「ワゲンサイル」を召させられ奏技の席に列するとを請ひしに直に勅許がありました。さて其當日に至り此兩人共に參內し各其席に就き「モザート」に兼て巧なりとの噂高き「パービスコート」を彈すべきの勅命ありました。その時六歳の小童なりし「モザート」ハ當時の大家「ワゲンサイル」に向つていへるやう今お手前の作られし合奏曲を奏せんと思へバお手前願くハ余の傍らに來り樂譜を開き給ハるべしと申しました。「ワゲンサイル」ハ有名の大家なる上に初對面でありながら此の如き大言を發したるは甚傲慢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

のやうでありますが斯の如き行のある處が常人の及ばざる處で實に豪膽なるものです。常人ならば己に優るものを見ては之に媚び諂ひ自ら謙遜する處あるのですが「モザート」は「ワゲンサイル」氏を以て己れより優れる者とせず己れと全等なるものと思ひ格別に尊敬しなかつたのです。此日の音樂大に巧にして御感斜ならざりければ再び「モザート」を宮中に召させられました。皇帝は戯に「モザート」にいはるゝやう子は實に音樂には巧者なれども五指を以て彈するは何人もよくする處なり一指を以て彈するを得ば衆人を驚かすに足らん子試みるべしやと難問を掛られましたが「モザート」は少も驚かずさらば試み申さんとて一指をもて彈しましたが其調子といひ其拍子といひ實に巧なる者にて恰も五指を以て彈する樣でした皇帝は又更に譜面を隱しハンカチーフを以て目を覆ひ玉ひ五指にて彈せよと所望し玉へは「モザート」は更に驚く景色なく一指を以て彈したる時よりも美事に奏したと申すとです。是は「モザート」が記憶力强して樂譜を見ず共能諳ずるが故です

「モザート」は是迄「パービスコート」に用ふる曲のみを作り且此器のみを彈しましたが「モザート」の才能は一樂器に局らずして如何なる樂器をも彈ぞるとを得ました。嘗て「ピアナ」と申す處にて小き「パイオリン」を買ひ常に是を彈して自ら樂み居ましたが是は決して異物の樂器ではなく玩弄物で有まして前に申した小供の行列の時に用ひた者でしやう。其頃「パイオリン」に堪能なる人あり「ウエンズル」の人成が或日「モザート」の父を尋ね來り其近作なる「トリオ」と稱する三人連奏する樂器に用ふる曲に付批評を求めましたが父の申す樣批評は差置先此曲を彈し試むることそよけれとて父は「ベース」を彈し訪來りし人は第一の「パイオリン」を彈し折節來合せたる寺付のトロンペッター「シヤタトチル」と云人第二の「パイオリン」を彈するとに定めました。「モザート」は其處に來り已れも三人の中に入第二の「パイオリン」を彈せんとを父に强請り升たれば父は叱りて申す樣子供で有乍ら大人と共に彈ぜんとは鳴呼の者よと少く怒氣を含て申しましたれば「シヤタトチル」は氣の毒に思ひ幸ひ第二「パイオリン」は余が受持なれば「モザート」に讓り余は補助を致すべしと申入れ升た。父はさればとて承知したれば「モザート」は大に喜び彼玩弄物の「パイオリン」を持來り「シヤタトチル」と共に彈じましたが「モザート」は三人に劣ず巧に彈しければ三人は舌を卷て驚き升た殊に父は「モザート」の「パービスコート」に巧成とは兼て知處成

が斯まで「バイオリン」に巧なりしを知らざりしといふを見ば「モザート」は父より教を受たるにあらずして自學えしものなるとか知れます。「シヤタトチル」は「モザート」が斯く美事に彈じしに感じ己れの「バイオリン」を投ていへるやう寧馨兒は實に巧なるもので決して私などの補助によりたるものにあらず故に一人にて彈せしむるも可なりとて「モザート」一人にて彈しさせしに實に巧に彈し得たりと申すとです此時彈し出しゝは「シックストリオ」とてトリオの六つありしものでした

「モザート」は精密なるとを好何事に拘らず毛頭も相違あるときは之を改むるにあらざれば心を安んぜず此心は遂に習慣となり性質となりました。不思議にも十歳の時より大に喇叭の音をきらひました是は其音種々なる音の混雑したるもの故自然粗暴の音を出すが爲でしやう。そして喇叭の音を聞くときは忽ち身の毛悚立つ程之を嫌ひ恰も他の小兒かピストルを嫌ふと仝じやうでしたから父は之を悪しき癖なり如何にもして之を矯めんものと思ひ「モザート」の側にて喇叭を吹立てたるに「モザート」は床上に伏轉び泣き叫びて父に早く止め玉へと絶え入らん計りなれば父も餘儀なく之を止めました。

三人相共「バイオリン」を彈ましてから「バイオリン」が大層面白くなり是迄學ひたる「バービスコート」よりも却て「バイオリン」を借て稽古をいたしました。或日「シヤタトチル」は彼の「バイオリン」を携へ父の所に來し時「モザート」は玩弄物の「バイオリン」を以て頻に或「ピース」を彈して居ましたが「シヤタトチル」が來を見や否や直に走り行「シヤタトチル」に向ひあなたはその「バイオリン」を如何なさいましたかそれを私に貸して下さいとまだ挨拶の濟まぬ中にそれを取り一つ「ピース」を彈し大に驚きたる容子にてさていふやう是は私が先日拜借したる時の調子とは異つて居りますが何故お直しなさらないかと申しました。しかし父も「シヤタトチル」も一向心に掛ず妙な事をいふ子供かなとて只一笑に付去り其日は「シヤタトチル」も其儘家に歸りました「シヤタトチル」歸て後父の思やう「モザート」は奇妙なるとをいふものかな「シヤタトチル」の「バイオリン」を提て來りしを見て突然に彼樣なとをいひしは何か少し異しともあるならんと考へましたから使を遣り「バイオリン」を借受け精密に調べましたれは果して前に比すれは半音の半音の又其半音程下つてをりました。實に斯の如く僅なる相違なるも「モザート」か「シヤタトチル」が入り來りしを見と直に尋ねたるは何處かにて

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

「シヤウトチル」がその「パイヲツン」を彈したるを聽き畢て已か前に彈じゝ時の調子を能記憶して今之を比較し其差あるを知たるものでしやう。實に記憶力の强と耳の力の强きハ感服の外ありません。凡ろ一藝あるものハ兎角矜り易きものですが「モザート」は少しも左樣なるとなく且又孝心深く何事にても父母の許すとにあらざればなさず又父母の命するとなればいかなる難事にても辭したるとハありません。こゝが氏の傳を讀みて起敬すべき處です

流行

單物

單物にはめつきりフランネルが大流行になりました。ほとんど綢子も繻子もといふ體です。　その縞柄色合に至ッては定まりませんがまづ淑女には縞柄もあまり目に立たず且鼠なら極めて薄く、白茶の薄鐵、この邊が重に向きます。

晴雨計かんざし

この頃賣出しになつた晴雨計かんざしをすこし插す人があります

ゴム製珊瑚

白ぼたんでは巧にゴムで櫛その外さま〴〵の髮飾りをこしらへますが、近頃はまたゴム製の珊瑚玉を賣り出しました。どう見てもこの色合などの麗はしいこと、人造とは見えぬくらゐです。　今珊瑚ハ廢つた方の世の中、したがつて之を用ゐる人も多くは有りませんが、その割には隨分ろ〳〵人が用ゐるやうです。

半襟

烏帽子ちりめん（主に）の色の薄色染なのにあつさりと墨繪が中程ぐらゐ書いてあるのが非常の流行です

パチン

流行といふのは妙なもので、近頃は世上に重くるしくパチンが些しあらはれました。　このパチンは指環の類かざりと同樣で、金臺の花にダイアモンドか眞珠かトーパスを嵌め込みにした西洋風の物です。

批評

淡線記音學

藤木顯道氏著、神戸大日本顯道學會出版。

ピットマンが始めて記音の法を發明してからこのかた、稽この學が年を經たことも淺く且つ習練もまだ積まなかつたの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ため、思ふやうな信を置くことも出來ませんでした。

意味をあらはす字と音をあらはす字との優劣ハ既に定まッて、また畫の多い字と少い字との得失も萬人が一致して居ます。

從來の字ハ各國いづれも習慣でわづかに用ゐて居るといふだけの勢、未來の處かならず合同の文字のあらハれるのハ素より疑も無い事です。元より今日世界の文字の中にハ多少文字たるの資格を得るに於て耻かしからず、もしよく之に修正が加ハッたものならバ他日に望の有りさうなのも無くハ有りません。が、口でこそ修正が加ハるとも言へます、充分の修正ハ決して一朝の事でありません。「小供ハ大人の父。」而も文字の資格に於てハ多くまさッて居るところの速記の字、たゞその今日の樣子がまだ幼稚だからと言ッて之を卑める譯にハ決して行きません。

只、しかし在來の記音術に於て、その當局者が苦心するにも關ハらず、猶不充分の點として數へられるものゝ多かッたのハ主として記音術の趣意の深いところが言語學者によく分からず、また單に技術者であるだけの記音術家ハ多く理よりハ實に傾いて、辛勞の間一定の標準が十分たしかに無かッた、それらです。言語學者ハ未來に於て人間が識別し得る宇宙萬般の聲音をもつまびらかに調べやうとしても、多くその同意が記音術家に通じませんでした。わづかに記音術家が記音術に就て各々獨立の見解を下し、別々の工夫を求め、それで用ゐて居るばかり。これハ世界の文字學（と名が付くものなら）の一大欠點で、翻ッて思へハ學者が文字の進步を圖るのに冷淡なのを攻擊しなければなりません。

今藤木顯道氏の此著述ハ大に學理の眼で經驗の事實を取扱ッてあります。いまだ精讀の暇ハ得ませんが、しかし詳評を他日に讓るとしても多少の批評を加へるのハ喜んで爲ることです。

要するに藤木氏の主義に於てハ一の不贊成もありません。かねて吾々ハいさゝか將來の文字に就ても意見を抱いて居た、その意見と實に吻合して居ました、藤木氏の說ハ。

まづ文字に必要なる資格を定められたのハ徹頭徹尾新らしくも有りませんが、しかし双手を擧げて贊成する處です。

一、記臆し易い事。二、見別け易い事。三、目との關係の宜しいこと。四、文字起原の正しい事。五、吾々の發音と同時に記載し得べき事。六、左から右へ書くべき事。七、文字が互に連り得る事。八、活字上便利な事。九、同文字で異体の書方の無い事。十、單に書記法の文字、またハ印刷的の物で無い事。十一、魯魚の誤の生じない事。十二、熟練しなくても書ける事。十三、字數の少い事。十四、濃淡で發音の區別としない事。十五、首字を見別け得る事。十六、名詞の固有と普通とを見分け得る事。十七、母音が前につくか後につくか、わからぬやうな事の無い事。十八、修業期限の短い事十九、國權上に利のある事。

右十九件の箇條の中、急と不急との別ハ有りますが、兎に角全体至當な事です。が、肝要な文字の効用に至ッてハ何とも言ハれなかッたのハ如何の故でしやう。即ち淡線記音の字で音として寫せぬ音ハ無いと假り定め、右十九條の外に今一條、吾々の耳が識別し得るかぎりの音聲を寫せる事と御

加へなさらなかつたのは抑も何の故でしやう。思ふにこれは既に明らかな事、言はずともの事として省かれた事でしやう。しかし、金石の者や鳥獸虫魚の聲は取り扱ふ必要がまだ多くない故略したと前に言はれた處が有るのを見ると、いさゝか面白くも無い感じも起ります。勿論金石其他すべて人間でないもの〻聲音に至つては今日までその聲音が何の韵に屬するか、その各自を判斷する標準がたしかにも立つて居ないところ、強いて今之を記す勞を執るにも及びますまいが、しかし其中多少わかつて居る、たとへば樂器の音などすこしは寫す處を御示しになつてもよさゝうでした。

すべて附錄の趣意は感謝して拜見しました（多少輕噪な語氣はありますが）。本文に至つてはまだ精讀しませんから敢て此號では評しません。たゞ一進步として賛すべきは名がへして淡線記音學といふだけ有つて從來の濃淡二線の用ゐ方て音の清濁をわけた弊を除かれた事で、もつとも結構な事と思はれました。

評者は從來の速記術を充分に知りません。いさゝか學びましたが、熟練も何も得ませんでした。が、些少ピットマンの功勞を稱すると同時、また音の整頓の仕方に於て肺腑に落ちぬところが有ります。とは言へ、僅々の餘白で言ひ盡すべき事でもありませんゆゑ、爰では何とも言ひません。やがて閑隙して著者の教を受けましやう。

兎に角記音學自宅獨修にはその一斑は窺へる書物です。

山間の名花

山間の名花は湘烟中島俊子の作で、都の花へ出たものです。女史が小說の筆を執られたのは前後あはせてこれで二度です。前の善惡の岐に就ては記者も敢て酷評して、窃に女史の後作を望んで居ました。處を山間の名花の現はれるのに逢ひました。

まづ全体から評して、好小說か、惡小說かといふに、好小說と躊躇なく言へます。前の善惡の岐に於ては女史の作として甚だしく失望したもの、しかし山間の名花に於ては如何にも女史の作として讀むにも滿足する處が有ります。

文が巧麗でなく、結構が巧みで無い、その點に於ては山間の名花もわるい方です。が、その趣意に至ッては――もッとも評者が敬服した處――一脉の筋が隱然通つて居ます、嘗て評者は嵯峨のや氏の初戀を讀み、その氣脉の通徹して居ること、近頃の雜小說の比で無いところに感じました。今山間の名花に對してもまた同樣です。即ち、全編の眼目とする處、最もしたしい、貴い、相らしい夫婦間の眞の愛、これが全くの脉です。

主人公の高園夫婦は比する處が有るかどうかは知りませんが、たとひそれにしろ高園夫婦、ことに芳子の天性が曲がらず、撓まず、また走らぞ、過ぎず、綽々として餘裕が有ッて而かも足りぬ處は無いやうに現はされたのは即この小說が一部の光輝を放つ原因です。會話や文章の体の熟して居ぬのは疵です。が、夫婦の情が巧に描いてある優處は優處ですが外に褒める處といふのは作者が女性であるだけに女性らしい

着目の可なり有る、それらですか、しかし氣脉には及びません。それのみが、所懐を洩らした作とは何處から見ても分かります。無論「氣」によッて出た文字、その他の目的は全く無い、即ちこれが高潔な作を爲した原因です。

山間の名花を嚴格な意味の文學として、それ故に、論ぜれば排置や文章には取る處が有りません。しかし。所懐の外に文字の無い處から見れば決して斥けられぬ作です。

堀出しものとお八重樣と
そして嵯峨の尼物語

大坂 琴水女史

新著百種の第二號は竹の舍先生の堀出しもの實に初號の色さんげよ優ても劣らぬ無類飛切の御卓作讀めば讀む程面白しろ味の增趣向は別に斬新と云ふ程には無いが、人間中の最と眞率なる天眞爛漫たるを以て最も彼れの長處となす、然も從來世人の爲めに輕蔑せられ而も是迄小説中の主人公と成りしとの最も少き田舍漢を以て其主人公とし、其の對手には村長の令孃而かも文明的の思想ある清絶水の如く風奇山の如き淑女を以て女主人公とせられしは誠に嬉れしさの至りです

美妙君の歎かれし如く天下浮薄流行の世の中に斯くの如き律義なる若者、斯くの如き優潔なる令孃、夫れを綴られし藁村君も隨分物好きな御方樣です、表紙の粹なるは言はねが花か本文一ッも插畫なし、如何なる故か言はでも知るへし君か心。

文章に付ては隨分世の中の騷がしさにも不係無頓着に古今通行の文法なから、此の君の文章には亦別に云はれぬ味わり實に插畫を加へられぬも道理や、堀出し物第十一頁の初めより其山川晩景を叙せられし樣、見あかぬ迄の好風景思想の胸に浮ひ出つ、斯る文を讀し畫伯如何に筆取插畫を揮毫し得可や眞に此等の文をこそ、筆寫眞とこそ云へけれ表紙に載せられし椿の花、げに本文に緣多かり、もし鐵腸子か斯樣な文章を書かれしなら、直ぐ欄上は椿を寫す一、一二、一三、とても載せやせん其他此書の妙なると、親子の狀況、田舍漢の朴卒の樣風俗の最讀む間に自ら田舍を逍遙し居る樣な心地かします、若し手元に色さんげの有なれば字數をも計へて自慢せんものを、千載一時の夜堀りし穴に雨溜り池となりて局を結ふ御趣向實に此上も無ゐ面白しろいと、結末の一句實にも改良小説の本意に叶へり。

お八重さん、團扇投げ出し御悲しみ道理とこそ思ひなから琴水も女の身分、御介ひ申す譯にも參らず、趣向は只に古ひしものを燒直されし而已文章に付ては佳妙なと、美妙君の樣な處あれば御先師御讓受の体載もあり兄弟子某々樣の受賣も有りて一向其等も定まらず其卷首の題詩の如く、其多能を顯はし玉ひしか

大井川の上に住み玉ふ尼哉、これも亦余りに申すともなし只た其發端が二ッ有る樣なりしかし、紙屑買ひ知己になりしは其豪客に、けがされしよりの結果たれば卷首の發端も發端なりと云ひ玉はゝ其迄而已、兎に角、此も堀出しものに能似て眞を知らぬ歌妓の眞を愛にし樣を寫し玉ひしと而已面白く覺ゆ元來大坂人は浮薄なりとは世間の通評、左を當

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

大坂に斯る律義なる、人あると吹聽し玉ひしと琴水大坂人にして殊に喜ばし、其十五號に載せられし挿畫鳴乎奇麗といふの外なし去かし此畫の圖案ハ國民之友三十七號よりの結果とぞ想ひしハひがめか但し文章ハ流石ハ先生再讀三讀の價値も有ります

序に云はん以上三ッの小説の序文にハ皆申分あり殊に篁村君などハ時代を說かずと云ひながら華族の一字もて明治時代が知れ申したり。堀出しもの　男女の關係と尼物語の關係とハ大變能う似て居て、お八重の隱匿と梅香の斷念是れ亦余程能く似て居ます

文庫の古い筆を借れバお八重が艶で、尼が通で堀出しものが粋とでも云ひましやう。

追て申す兼て約束した、無花果草紙も十五號に完尾しました、序にと思ながら多忙にて閉口、双紙を讀む隙の有るのを今から樂んで待ッて居る程、たッて評を申し様なら、いらつめ、三巻、百ペーシの下段。

懸賞文藝

懸賞文藝ハ餘白の無い爲め次號に讓りました。たゞ新題を出します。

第四回懸賞文藝新題

螢狩　　七月五日しめきり

右　歌類ならバ和歌でも、唱歌でも、發句でも。
　文類ならバどの文体でも。いづれも滑稽体ハ嚴禁。

原稿ハ一行二十七字詰に書く事。字体ハ楷書にする事。狀袋と中の紙とに各々宿所姓名を書す事。　右一等賞(いらつめ一年分)、二等賞(同半年分)、三等賞(いらつめ一冊)

通信問答

吉田篤子さまへ

(一)鼻を好みの形にする法ハ發明した人が有つたとは聞きましたが、よく知りません。

(二)言葉多い人を無口にするのに是といふ法もありません。

漂々堂さまへ

(一)夏帽子の垢じみたと仰やるのは麥藁帽子の事でしやう。ならば、炭酸を水に解かし、それを刷子につけてそろ〳〵擦れバ垢は大抵落ちます。

(二)濃茶は胃に害を爲します。兎に角過度に茶を用ゐてハ身体のためわるいです。薄茶をほどよく御用ゐなさい。

(三)油の手足に出るのを止めるは却つて毒です。

(四)齒の肉色の惡いのは血液の汚れて居る故です。是ハ他の藥を内服なさい。サルサ根(藥屋に有升)四オンスを六十四オンスの水に入れ、四時間煮立て、更にサルサ根を取り出して丁寧に突き碎き、それを前煮立てた水へ入れて卅二オンスに煎じつめ、それから絹で漉しそれを二オンスづゝ一日に三度内服するのです。

火が強過ると、まだ煮立てゝ四時間立たぬ内に水が蒸發して仕舞ひますから、よくその注意を爲さい。

大和さくらさまへ　謠文の七騎落の作者は知れません。作の出來た頃は足利時代です。

恥しらぬ女さまへ　㈠和文及び和歌の註釋書も色々ありますが、初學者にも害が無くて且つ有益なものは文の方で佐々木弘綱大人の竹取物語俚言解、歌の方で古今集遠鏡などです。　いづれも板本になつて居て、誰にもわかりやすいものです。　㈡倘古假字格といふ本も初學が假名遣を覺えるのに好い本です。　大八洲學會で出版の(書名をつひ忘れました)も中々宜しいです。　㈢以下は何れもお答致しません。

東京女學のいらつめさまへ　㈠晴雨を簡便に知るのは夏ならば草の葉の露を御覽なさい。　葉末に露が多く凝つて居る時には必らず晴れ、居ぬ時には必ず雨です。　燈心に火を付け、火を上にしてろの燈心を手に持ち、火が下まで十分に燃えて來れば晴です、でなければ雨です。　風も無いのに烟が下へ舞ひ下るのは降る前兆、高く昇るのは晴れる兆です、㈡之に付ては後の琴水女史への答を御覽下さい。　㈢御尋ねの書物は有効のものとは受け合はれません。　㈣橙花水も簡便には出來ません。　すべて蒸留して得るからです。　最上の橙の花から取ると、目方十三貫ほどの花からわづか一オンスしか取れません。　花を擇ばず取ると四五オンスは取れますが、液の色が黄色です。　すべてこのやうな物は直接に藥屋から御求めなさつた方が適當です。　但し、硼酸とリスリンと橙花水との混合物で色を白くする目的ならば、我慢して橙花水の代りに鹿印の香水(多く香水を賣る唐物屋には有ります)を御用ゐになッてもよろしいです。　㈤一二度月經が常よりすこし多くても心配にはなりません。

山口若子さまへ　㈠レモン水で宜しいです。　㈡前の吉田篤子さまへの答の第三を御覽なさい。

つる子さまへ　前の東京女學のいらつめさまへの答の第四と後の琴水女史への答を御覽なさい。

T. D.さまへ　一週間内お顏のニキビを去る法は有りません。　また之を早く癒すのはよくありません。　前々號から度々述べた硼酸とリスリンと橙花水の混分物を御用ゐなさる方が永く肌のために宜しいです。　ニキビなど無理に治すとよく腫物に變はッて外へ吹き出します。　㈡パスタマッタは色を白くするのは無効でもありません。　㈢橙花水の値が高くて困るとの御小言は度々まゐりましたから即ち更に工夫えました。　前の「東京女學のいらつめ」さまへの答の第四を御覽なさい。　㈣色を白くする法は後の琴水女史への答を御覽なさい。

Your Sweet Love さまへ　前の「東京女學のいらつめ」さまと云ひ、T. D. さまと云ひ、また貴孃といひ、同じ學校から同じやうな問が掛ッたとは實に不思議です。　御尋の趣は前の T. D. さまへの答の第一を御覽なさい。

美迷女史　㈠砒石は全身の色を白くするために用ゐるのです。　㈡頸の色の黒いのは日に炎けたのが大きな原因になッて居ます。　これはレモン水で御洗ひなされば次第に白くなります。　㈢梨の汁　(猪口に三杯)、生姜の汁　(同上)、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

燒酎(同上)、白蜜(猪口ゐ一杯半)、この四味を青銅の鍋で煮ながら之に小人參(一兩半)、唐白朮(一兩半)、貝母(三兩)を加へると煉藥が出來ます。之を一週間も日よ二度ぐらゐづゝ内服すればバ乾度痰は取れます。(四)紙に赤インキは落し切れません。(五)逆眉毛を治す方は知りません。

琴水女史へ　折角砒石で色を白くする法を御尋ねですがこれハどうしても通信などで御傳授は出來ません。砒石ゐて澤山飮むのでもありませんが、あの通りの劇藥、一分でも目方をバ過てず、ことに他の混合物も二三種ありますとゆゑ、折角の御懇望ながら御傳へ申しません。しかしこの代り之に亞いで成効も速な法を御傳へ申します。尤も製造が面倒です。が、決して過つことはありません。これは有名なるエミル、ブ、パリとて巴里で評判の色を白くする藥の藥方で。非常に秘密になつて居るものです。其法はまずリスリン十五匁に水七匁、アルコール六匁を交ぜ、之にコロン六十五匁を混ぜるのです。これで藥は出來たのですが、このコロンの製法が手やすくありません。即ち、コロンにもマリア　ファリナのコロン、ファイン　コロン、オーヂナリーコロン、ハンド　コロンなど幾種類も有りますが、マリアファリナなどは非常よ高く掛けなければ出來ません。この中で最も廉く出來るのはハンドコロンで、その製法は左のとほりです。　八十五度のアルコール六升、レモン精五オンス、佛手柑精十二ドラクマ半、ベルガモット精四オンス、ラヘンダ精一オンス、ベンヅイン丁幾一オンス、これらをこの書いたとほりの順に混ぜたのが即ちハンドコロンです。　この中の藥品ハいづれも藥屋にありますが、いづれも可なり高價の物です。ゐれ故以上十分に顏に塗る迄に作り上げればバ一寸價ハ張ります。　しかし此位の成分の物で無ければバ(硼酸リスリン橙花水の混合液や巴旦杏鯨頭油白蜜の煉藥を除く外)たしかに肌に利くとハ言へません。　價を安くするにハ右の成分を少くしてその代りマグチシアを入れます。が、前々のいらつめで言ツたとほり、それでハ肌のために大毒です。砒石を飮むのハ色を白くするだけの益にしかなりませんが、この藥でハ色を白くするのみで無く肌を如何にも滑らかにし光澤を出しニキビを去り油氣を除き、ゐの上腫物の跡、ことに疱瘡の跡をさへ二週間ぐらゐの間に落すこと、全く記者が保証します。

杉田かめ子さまへ　(一)黒豆の湯ハ御尋ねのとほりいくらか聲に藥りです。(二)枕の低いために目の縁ハ腫れるのです(三)硼砂ハ廉い物でも。しかし髪垢を落したり色を白くしたりする効ハ大層あります。(四)ヘチマの水ハ顏の色を白くするのに毒にハなりません。しかし大きな効も有りません。

猶この外左の方々からの質問もありますが、餘白がありません故、爰よ省き、念のためゐの御名だけ今出して次號で答へる約定をいたします。

一、藤田秀子(四問)。二、正修漁史(三問)。三、よし子(四問)、高橋ろく子(一問)。伯耆米子角盤高等小學生徒(一問)。松田うめ子(四問)。長門迂婦(八問)。鵜きく子(二問)。英文小説愛讀者何某(四問)。堀尾太郎 (二問)。

朧月夜嬢(二問)。〇〇女學校エス、エヌ。同校紅崖女史
右の外
岩崎八重令嬢の御答はすべて此號の前にも皆出て居ましたから御覽ください。　洩れたのはやはり次號へ出します。

注意
通常世人は耶蘇の生れしや明治二十二年にて一千八百八十九年前と心得居る樣なれども或る敎師より承りたるに實は「ヲーガスタス」在世の時「シユリヤ」の「パスレヘム」なる小村にて生れしものにて紀元前四年なりと左樣なれば通常耶蘇降生紀元一千八百八十九年と稱すれども前の文を見れば紀元一千八百九十三年と稱さゝれば不都合かと存居候が右紀元前四年なるは如何なる理由なるや御說明を願上げ候

元成立學舍女子部生徒
右　中山ゆみ子

いらつめ記者
御もと

この問に御答へ下さつた方にはその御答を載せたいらつめを一冊進上します。

餘興

新作謎皆答の方には**新著百種**の内望みのもの一冊進上いたすべし〆切は七月七日一日の猶豫もなし解草は謎用紙に認めざれば沒書

(一)　出題者　神田　司馬絢子
皆樣のお目に留まらず多く山合に棲で居りまして皆樣が何か仰しやれば直に口眞似をするものはなんです。

(二)　仝　媛路　城南女史
身賤の者の手に成長して人民の爲に犧牲となるも厭はず人民には大恩人であるのに罪もないに縛り上げたり牢に押込みたり竹槍で腹を突たりします。この憐むべきものはなんです

(三)
樂な樣で樂ばかりしてはゐず〇〇〇〇(虫二)

(四)
十七を三ッに分けると獸の名一ッ

(五)
二と四と六と八と三と七と一所に混ぜて煮ると味のよいものができます

(六)　出題者　本鄕　くろんばう
「いらつめ」になくて女學雜誌にあつて武骨なお婆さんにあつて品のいゝ娘にないものは？

月報

○皇后陛下御仁德

皇后陛下ハ　今回東京慈惠醫院の狭隘なるが爲め隣地なる避病院を他に移轉せしめて之を擴張せんとの計畫あるを聞し召れ大に御用度の御省略を仰下され廿一年度に於て衣服其他御物御雜具類にて定額の中より若干を節させられ一は慈惠醫院をして倍々廣く慈惠を施し一は速かに避病院を市外に移轉し人民の煩を除かしめんとの仁慈の思召にて左の如く金員下賜の恩命を下されたりと承れる

今般其院の區域を廣めんが爲め隣地避病院を移轉せしむる趣　皇后陛下被聞食客年中御服其他諸費御節縮被遊候殘餘金八千四百四十六圓九十錢八厘　思召を以て右移轉費として其院へ下賜候旨御沙汰候此段及御達候也

明治二十二年五月廿三日　皇后宮大夫子爵香川敬三

慈惠醫院長高木兼寛殿

○御誕辰祝日

先月廿八日ハ　皇后陛下御誕辰なるを以て皇族大臣宮内勅奏任官等ハ何れも參内祝賀を申上らる又府下の重なる女學校即ち華族女學校高等女學校を初め櫻井女學校、明治女學校、成立學舍女學部、跡見女學校、女子職業學校等其外幾多の女學校ハ大抵學業を休みて祝式を催したり

○伏見婦人慈善會　ハ追々盛大に趣き會員百八十五名となり四月十三日伏見町字風呂屋町西方寺に於て第二會を開き本願寺の赤松連城氏盲啞院長古川太四郎等の演說及伊原邦資一同の箏曲あり次で五月十一日第三會を同所に開き京都高等女學校新井旭氏以下の演說音樂等ありてなか〳〵の盛會なりし由

○京都婦人同窓會　先年中鴨沂會の設ありて高等女學校の卒業生が智識交換の機關となりしかど中絶の姿となれり然るに今度同校長の盡力により婦人同窓會といふ者を設け毎月一二回づゝ開會し女德を共勵することになりしといふ

○京都婦人慈善會　同會ハ開設以來一盛一衰ありて目今會員ハ二百五十餘名ありて盤梯山破裂の際も若干の金圓を贈與し京都盲啞院へも金若干圓を寄附せしことあり毎月一回づゝ必會合し來りしが幹事の中に耶蘇信者ありて彼此苦情を唱ふる佛敎信者ありとかにて往々忌ハしき世評を聞き居たりしが先月京都の都踊の最終日の收金を盲啞院へ寄附せしめんとして或人より申込まれし處都踊に於ても速に承諾し爲めに一日の日延を揭示し隨分仰々しくしたる故一二の新聞にも嘲弄がましき事を書き立てたる故にや突然該寄附金を謝絶したりしよし

○乞食の敎育　北米にハ犬の學校ありて犬を敎育するとハ嘗て聞き及び居たりしに我國の如きハ中等社會にある人さへ其の子女に普通の敎育を受けさせざるものあるとハ實に敎育者の苦慮して措かざるところなり然るにそがなかにも亦奇特なるハ新潟縣下岩船にて三十餘戸もある乞食の子弟に敎育を受けしむることとこれなり該地方の有志者ハ寄附金を募りて之に衣服書籍を與へて尋常一般の子弟の如く學校に入らしむると云ふよみすべきことなり。（千葉敎育會雜誌）

○山川氏母勝督院逸事　前號に聞くがまゝに其傳を揭げしが社友上野銀子女史より更に其逸事を寄せられたれバ茲に揭げぬ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

山川勝猗院夫人の事は已に二三新聞にも揭げたれば茲に之を略して其逸事を揭載すべし抑夫人の配重固氏（即浩氏等の父）尤子女の敎育に力を用ふ浩氏の幼なるや豪縱にして甚讀書習字等を嫌ふ且文事に不敏にして一句の文章素諳百回稽記臆し能はざることあり重固氏訓誨百方朝夕倦ず或は嚴に或は温に勸奬敎導往々朝より夜半に達す夫人常に傍に在りて之を慰め之を勵し夫重固氏外に出れば夫人代りて敎授の勞を執れり浩氏常に人に語りて云予が父の嚴肅勸勉と予が母の温和奬勵との敎育無りせば予は目一丁字を識らず日常往復の文章も尙且書する能はざるの一武夫たりしならん父母敎育の恩の高且大なるは天地も啻ならざる也と以て其敎育の厚きを見るべし。

夫人の未亡人となられしは四十四歲の時にして長女二葉子十七歲長男浩氏十六歲二女三輪子（櫻井氏に嫁す）十四歲三女操子九歲二男健次郎氏七歲四女常盤子（即德治氏の配）四歲五女捨松子（大山氏に嫁す）一歲なり故に操子以下の起臥飮食渾て夫人の手を要せざるなし浩氏十九歲にして藩命を奉じて京師に赴き家に在す之より先二葉子は他に嫁し二女三輪子も亦嫁して夫人の勞を分つ者なし舅兵衞氏年八十歲鍰鑠能家事を總理すと雖も日常の事は悉く夫人に委かす故に外親戚の交際内家事の整理子女の敎育等一切夫人の手に辨す二葉子三輪子の婚儀も皆夫人の料理する所たり當時會津藩子弟の敎育に尤力を用ふ文武の學業は靑年子弟終身の浮沈に關せり故に健次郎氏の日新館に（即藩學なり）入るや每朝日出より先ちて夫人自ら起て同氏を喚起し當日要する書籍筆墨を整理し直に机前に對して勉學するを得せしむ其夜學に出る時の如きは往々夜半を過く夫人必ず燈下に紡績して氏の歸るを待ち其夜學修せし課程を質問し其勤怠を監督す寒夜の如きは親ら衣服を煖め或は菓餅を供へて其苦學を慰む侍婢數輩ありと雖も必其手に委せす身親其勞を執れり女子の敎育も亦日常の起居動作手習機織裁縫等に至るまて課程頗る嚴なり然とも細行の如きは深く之を責めす事苟も志操上よ關するとあれは細微と雖と毫も假借せす男女を問はす或は暗室に投して中心悔悟するを待て始めて之を宥す其嚴も亦如此

夫人性活潑頗る俠氣あり常に强を挫き弱を助るを好む曾て權貴の爲に聊も意旨を曲けす貧困不具の者の如きは常に意を盡して之を哀憐せり又世人の西洋よ心醉するを惡む故に往々矯激の言行あるを免かれず常に云日本人にして日本魂なきは日本人にあらす今の官吏輩は一も西洋二も西洋徹頭徹尾彼赤髯奴の嚬に摸倣し醜として恥るなし彼輩何ぞ籍を西洋に移して赤髯奴の隸僕とならさるヿ甚舞踏を嫌ふ一夜夜會に赴き舞踏を觀る即云何等の醜態何等の怪事ぞ堂々たる有髯男子にして何を苦んてか如此咄々怪事をなすや他日我か上流社會の風俗を壞乱するものは必す此舞踏ならん又立食を評して云施行寺前乞食の集合のみと然れとも彼頑固者流の如く百事西洋風を嫌ふにあらす其學術の如きは深く之を信して頻りに靑年子弟を誘導勉勵せしむ。

夫人靑年子弟を愛す浩健次郎兩氏の門下より出て身を立るものあれは之を悅ふ己の子の榮達を見るか如し然とも其正邪を分別する甚嚴肅なり故に少しく佞奸の行爲ある者は親戚の子

弟と雖も敢て涵容せず直に面折し或ハ言語を接せさるに至る
夫人七十の賀に觴詠を書かせ左の歌を選して宴席に掲けられたり其物に拘はらざる如此。

兎に角にいのちのかきりたのしまん
かゝらん後はさもあらはあれ。

其他四五首の和歌を左に錄す以て平生の風采を相像するに足れり、

題しらす　大君にけふたてまつる初若葉
つむとも千世の數にかそへん

夏　月　行水ハ淸瀧川の早き瀨に
影もとゝめぬなつのよの月

禁中郭公　百敷の大内山の郭公
木かくれてたにきくよしもかな

雪下某が植置し松を見て　（雪下某ハ浩氏の門生也海軍少尉となり西南の役に死す）
なき人のかたみの松よ己のみ
何に千歳の色をそふらん

題しらす　風さそふ露よりもろき老がみを
哀と思へ野邊の秋萩

社告

○前號にお約束申し置きました織田右府より木下藤吉郎の妻女へ遣されし手紙の殘部ハ都合により今回は省き次號ヘ掲載致すべし

江湖の淑女君子の中で小說を著ハされ、その刪正を望まれる時にハ成美社でハ左の條規に因ッて請求に應ずる事と決しました。

（一）成美社でハ無手數で刪正する事。

（二）草稿返却の時に要するだけの郵稅を著者から成美社へ宛て草稿と一途に送るべき事。

（三）四十日以內に成美社でハ草稿を刪正して著者に返却する事。

（四）草稿の秀絕なのハ都合に因り、成美社で文を相當の價で求め、いらつめへ出すか、他の雜誌或ハ新聞紙に賣却の紹介を爲すか、いづれか爲す事。

（五）もし（二）の手續を著者が充分に履なかッたならバその草稿ハ沒書する事。

右の條規に從ひ、いらつめ第廿四號發兌の日即ち明治廿二年六月十五日以後、凡そ此規程を履んだ草稿をバ成美社でも此規程を履んで取り扱ひます。以上五ヶ條に御不承知が有りませんなら折角御遠慮なく御申込なさい。

右ハ他に類の無い新案の便利で、來る七月ハいらつめ初號發兌の三周年に當る、その祝賀の寸志、この新案を爲ました

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

地方の愛讀者諸君中雜誌代價延滯致居候分は郵便を以て御催促申上再三に至り候へ共尙御拂込無之方有之甚迷惑に付至急に御拂込被成下度若等閑に御捨置相成候はゞ無是非紙上にて御催促可申上候間左樣御承知被下度候

會計掛　敬白

改良 小說著作法

正價金三拾五錢　郵稅金八錢

小說稗史を著述せんと欲する者及び新聞通信者とならんとを望む者の爲其方法を精しく示したる書也

(郵券代用ハ謝絕す)岐阜縣飛驒國高山町六百九拾三番地　朝戸

美術園

五月廿日第七號發行せり
六月五日第八號發行

定價表

○壹部金拾錢(府外郵稅一錢宛)十部前金九十錢○二十部前金一圓七十錢○本園は一切前金に非されは發送せす○○見本郵劵十錢にて進呈す○爲換の振込ハ芝口郵便局へ願升○○郵券代用之向は一割增にて成へく一錢切手を要す○廣告料は一行(廿四字)金十錢也

世界の花園なりとまで外國人に賞賛せられたる我が日本の美術品に巧みなるは喋々するを待ざるなり然れ共此日進の今日よありて我美術家たるもの從來の技倆に滿足して毫も改良進步を勉めざれば勝を美術塲裏に制する能はざるのみか終には既に得たる名譽をも併せて失ふに至らん弊社之を憂ひ嚮に本園を發兌して改良進步の策を講じたるに大ょ江湖諸君の喝采を得たり之れ弊社の深く鳴謝する所なり就ては來る五月五日發行第六號より大に本園の面目を一新し且記事をも精選し我美術家の朋友となり師傳となり通信者となり世界の花園なる我が日本美術の花をして爛熳馥郁其色其香共に從前ょ倍蓰せしめむとす江湖の諸君舊に倍して陸續購讀せられんことを

贊成補員(弊店美術園の主意目的を贊成し加ふるに補筆の勞を執るゝ大家諸先生の姓名は第五第六號の紙上に詳なり)

代價請求(御愛顧諸君ノ內前金相切候向有之候ニ付至急御拂込被下度自然御送金無之向は無據發送差止メ候間此段爲念申上候也)

發行所　東京々橋區瀧山町一番地　天秀社

試驗及第受合

高等學校入學試驗學科

每月二回 豫修誌

歷史○地理○物理○化學○算術○代數漢學ノ講義

一部十五錢郵稅二錢

專門學士ノ諸學科講義錄及ヒ諸學校試驗問題答案ヲ揭ケタル未曾有ノ好雜誌ナリ(百ページ)入學又ハ登用試驗ヲ望ムモノハ此誌ニ由テ倍勞ノ功ヲ收ムル容易ノミ

◉時々懸賞文ヲ募リ優等者ニ賞品ヲ呈ス

◉學資ナキ者ニハ特ニ無代價無郵稅ニテ當誌ヲ送リ又ハ學資ヲ得セシムル便法ヲ設ク本誌ニ就キ見ルヘシ

東京神田南乘物町　吉岡書籍店

英會話○文典○讀本解釋○學話○單語○面白キ話

學校入學試驗問題及答案○校則

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

にほひ袋

例年の通り賣し出ます本年ハ別して体裁よろしくおつかい者、おみやげ等にハ至極代價拾貳錢五厘よりいろ〳〵

麝香

皮も身もお好次第中々極上の品代價ハ拾錢以上いくらでもさしあげます

シャボン

こんど濱のさる商館と特約致し手水シャボン、洗濯シャボン賣出しますとりわけこんどの新形化粧シャボンなぞハ中々の評判者で濱の外國婦人ハ皆このシャボン斗り遣ひますとの事其外洗濯シャボンも絹地、木綿地といろ〳〵ありますそれでその代價の廉な事……

おしろい下

花の雲と申おしろい下ハ時節柄是非佳人ハ一瓶携へて居らねバなりませんくだ〳〵しく申迄もありませんがこれさへつけて居れバ色のくろくなるにきびそバかすの出來る心配ハありません代價ハ六錢以上いろ〳〵

おしろい

花の雪と申おしろいハ市中ありふれた銘製とハ違ひ有功無害の眞剤なる事ハ別段申上るまでもなく御婦人方にて手前の花の雲、花の雪をご存じない方ハ耻と申してもよい位の評判代價ハ六錢以上いろ〳〵またつめ換も致ます

賣藥

萬病のくすり數々持合せてどんな御病氣でもお間に合ぬ事ハありません皆取次で居りますから……

調合

おきなやのくすりハ凡て大日本製薬會社で日本局法ろしてお調合ハ是非主人自身で配剤致しますから皆さま御懸念なく澤山御用願上ます

理化學用
藥品器械

學校の御用ハ特別廉價に販賣致しますから數々御注文御願申ますたとへ壹錢壹厘の品にてもどれほど遠方にても持參致ますから澤山御用願上ます
弊舗の商品をこんど西洋小間物店もろ木商店にて委托販賣致ますから同店よりも澤山御用願上ます
神田區南神保町四番地
くすりや
花の雲本舗
おきなや主人　敬白

●●速記彙報●●

毎月一回發行●●
第七冊　六月十一日發行●
價　一部金六錢　郵税共　六部前金三十四錢

概目
● 速記術ノ普及ニ就テノ希望
● 著述者ト速記者トノ關係ハ軍人ト軍器製造人トノ關係ノ如クナルベシ
● 速記術ト看病婦　松島華子
● 高等商業學校ニ速記術ノ一科ヲ設ク
● 高等商業學校　宇川盛三郎　速記術教授要領
● 百花園ノ發行ニ就テ　如水生
● 華族女學校學監　下田歌子君
● 速記法獨習書批評　市東謙吉
● 速記術ヲ學ブ者ノ讀ムベキ雜誌
● 言語寫眞器ト淡線記音學
● 速記瑣談
● 速記者ノ助ケ
● 本家本元
● 若林玵藏氏ヲ閻魔大王ノ裁判廳ニ派遣ス
● 白イ髯ノ生イタ馬
● 速記道中膝栗毛（第一回）　源綱記戯稿
● 速記術講義（第六回）　林茂淳講述
● 批評
● 新刊速記書及雜誌
●（廣告料）一行五號活字二十三字詰前金五錢（割引ナシ）

（發行）
東京神田區裏神保町一番地
［大賣捌］
東京神田區裏神保町
速記彙報發行所
敬業社

いらつめ第二十三號目次

社説
皇后陛下の萬歳を祝し兼り併せて慈善を論す　新保磐次君

文美藝術
和文の變遷　美妙齋主人
夏の初人を懐ひ起して　小金井きみ子
小金井に花を見る記　夢のや　うたる
音樂稽古の心得　立花家　うたる
柳櫻都鏡繪

家政
洗濯法……綿布＝毛織物＝白無垢＝更紗＝白繻子＝色絹＝絹ヰ付た油のシミを落す＝月帳＝黒布の色揚＝リンチンの鐵錆を落す●●瓜の漬樣……奈良漬＝胡瓜の鹽漬＝胡瓜を苦味なく漬く＝瓜類の糖漬●●物の腐敗を防ぐ法……飯のすへるを防ぐ法＝酢のかびを防ぐ法＝生肉の腐敗を防ぐ法●●魚鳥類の鹽漬法……風鳥の鹽漬法＝魚の子の鹽漬法＝牡蠣の酢漬法＝魚の酢漬法＝魚の砂糖漬法＝獸鳥肉の鹽漬法●●即席砂糖漬の法●●冷たる揚物を濕くする法●●果物類の貯樣……栗を貯ふる法＝柿を貯ふる法＝葡萄を貯ふる法●●味噌の製法

雜纂
母ひとり子ひとり
葡萄牙の風俗及ひ其婦人
酒を飲む妻を娶て醉漢ゟ富となる
女生徒の自炊

小說
繡獄窶　第三回　鶴亭飯人作

寄書
地久節ヰ付いらつめ方ヰ申す　法學士　渡邊輝之助君
如電居士ヰ與ふ　琴水女史

懸賞文藝
春の野あそび（一等賞）　靜觀山人
仝（仝）　松木よし子
仝（二等賞）　江崎龍六郎

通信問答
和歌唱歌の作り方＝煙筒ヰ火の入たを防ぐ法＝ストウ女史は誰＝手足の荒れを治す＝疊に付いたインキを去る＝西洋人の婚姻年齡＝虫類を寄せ付けぬ法＝小兒の夜泣を治す＝湯垢を去る＝日本に茶の始めて渡つた年月＝眞菰の灰＝疣を去る法＝玉子の腐敗を防ぐ＝飯の腐敗を防ぐ＝黑繻子ヰ付いた襟垢を落す＝香水を製する簡法＝小兒の寐起＝讀んで害ヰならぬ人情小說は何ぞ＝齒磨粉は如何なるものを擇ぶべき＝女の名の下に子の字を付け始めた時代＝富貴豆の製法＝物を貰ふを無心といふ譯＝クリーパーの化粧石鹼＝ニキビを去る＝日ヰ燒けたを白くす＝頭の禿けるを防く法

附錄
織田信長公木下藤吉郎の妻女ヰ遣す手簡の眞蹟

いらつめ

發兌	每月十五日ヰ發兌すへし		
定價	一册八錢	半年（六册）四十五錢	一ヶ年（十二册）八十錢
郵稅	一錢	六錢	十二錢
合計	九錢	五十一錢	九十二錢

郵便爲替　郵便爲替は拂渡局名欄内ヰ（神田郵便局）と記し受取人欄内に（神田駿河臺南甲賀町八番地成美社）と御認め被下へく候又郵券代用は郵便爲替の無き地ヰ限り一割増なれば妨なし
但し一錢切手ヰ限る

見本　見本一册入用の方は一錢郵券九枚にて發送可仕候

發行兼編輯人　山田武太郎　印刷人　佐野忠吉

發行所　東京神田區駿河臺南甲賀町八番地　成美社